

士師の書 士師記

¹ ヨシュアの死後、イスラエルの人々は主*
に尋ねて言った。「私たちのために、だれが最初に
カナン人のところに上り、彼らと戦うべきでしょう
か。」

² 主は言われた。「ユダが上るべきである。
見よ、わたしはその地を彼の手に移した。」

³ ユダは兄弟のシメオンに言った。「私と一
緒に私のくじで割り当てられた地に上り、カナン
人と戦おう。そうすれば、私もあなたのくじ
で割り当てられた地と一緒にいこう。」そこでシメ
オンは彼と一緒にいった。

⁴ ユダは上っていった。主はカナン人とペリ
ジ人を彼らの手に渡された。彼らはベゼクで一万
人を打ち倒した。

⁵ 彼らはベゼクでアドニ・ベゼクを見つけ、
彼と戦い、カナン人とペリジ人を打ち倒した。

⁶ アドニ・ベゼクは逃げたが、彼らはそ
の後を追って彼を捕らえ、その手の親指と足の親
指を切り落とした。

⁷ アドニ・ベゼクは言った。「手の親指と足の親
指を切り落とされた七十人の王たちが、私の食
卓の下で食べ物を拾っていた。私がしたとおりに、
神は私に報いられたのだ。」人々は彼をエルサレム
に連れて行き、彼はそこで死んだ。

* 1:11:1 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。

8 ユダの子らはエルサレムと戦ってこれを攻め取り、剣の刃でそれを打ち、町に火を放った。

9 その後、ユダの子らは山地、南の地、および低地に住むカナン人と戦うために下って行った。

10 ユダはヘブロンに住むカナン人に向かって行った。（なお、ヘブロン以前の名はキルヤテ・アルバであった。）そして彼らはシェシャイ、アヒマン、タルマイを打ち倒した。

11 そこから彼はデビルの住民に向かって行った。（なお、デビルの以前の名はキルヤテ・セフェルであった。）

12 カレブは言った。「キルヤテ・セフェルを打ってこれを攻め取る者には、私の娘アクサを妻として与えよう。」

13 カレブの弟であるケナズの子オトニエルがそれを攻め取ったので、カレブは彼に娘アクサを妻として与えた。

14 彼女が彼のもとに来たとき、彼女は父に畑を求めるよう彼に促した。彼女がろばから降りると、カレブは彼女に言った。「何が欲しいのか。」

15 彼女は彼に言った。「私に祝福を与えてください。あなたは私を南の地に置かれたのですから、水わき出る泉もわたしに与えてください。」そこでカレブは、上の泉と下の泉を彼女に与えた。

16 モーセの義理の兄弟であるケニ人の子らは、ユダの子らと一緒に、なつめやしの町からアラドの南にあるユダの荒野に上って行った。そして彼らは行って、その民とともに住んだ。

17 ユダは兄弟のシメオンと一緒にいき、ゼファテに住むカナン人を打ち倒し、そこを完全に滅ぼした。その町の名はホルマと呼ばれた。

18 またユダは、その領域とともにガザを、その領域とともにアシュケロンを、その領域とともにエクロンを攻め取った。

19 主はユダとともにおられ、彼は山地の住民を追い出した。しかし彼は谷の住民を追い出すことができなかった。彼らが鉄の戦車を持っていたからである。

20 モーセが語っていたとおりに、人々はカレブにヘブロンを与えた。彼はそこからアナクの三人の息子を追いつ出した。

21 ベニヤミンの子らはエルサレムに住んでいたエブス人を追いつさなかった。そのため、エブス人は今日に至るまでエルサレムでベニヤミンの子らとともに住んでいる。

22 ヨセフの家もまた、ベテルに向かつて上って行った。主は彼らとともにおられた。

23 ヨセフの家はベテルを偵察させた。（なお、その町の以前の名はルズであった。）

24 見張り人たちは、一人の男が町から出て来るのを見て、彼に言った。「どうか、町の入り口を私たちに教えてほしい。そうすれば、私たちはあなたに親切にしよう。」

25 彼が町の入り口を教えたので、彼らは剣の刃で町を打ち倒したが、その男と彼のすべての家族は逃がした。

26 その男はヘト人の地に行き、町を建ててその名をルズと呼んだ。それが今日に至るまでの名である。

27 マナセは、ベテ・シャンとその周辺の町々、タアナクとその周辺の町々、ドルとその周辺の町々の住民、イブレアムとその周辺の町々の住民、メギドとその周辺の町々の住民を追いつさなかった。カナン人はその地に住み続けた。

28 イスラエルが強くなったとき、彼らはカナン人を強制労働に就かせたが、彼らを完全に追い出すことはしなかった。

29 エフライムはゲゼルに住んでいたカナン人を追い出さなかった。そのため、カナン人はゲゼルで彼らの間に住んだ。

30 ゼブルンはキトロンの住民もナハラルの住民も追い出さなかった。そのため、カナン人は彼らの間に住み、強制労働に服するようになった。

31 アシエルはアッコの住民、シドンの住民、アフラブ、アクジブ、ヘルバ、アフィク、およびレホブの住民を追い出さなかった。

32 アシエル人はその地の住民であるカナン人の間に住んだ。彼らを追い出さなかったからである。

33 ナフタリはベテ・シメシユの住民もベテ・アナテの住民も追い出さず、その地の住民であるカナン人の間に住んだ。それでも、ベテ・シメシユとベテ・アナテの住民は彼らのために強制労働に服するようになった。

34 アモリ人はダンの子らを山地に押し込めた。彼らが谷に下りて来るのを許さなかったからである。

35 アモリ人はヘレス山、アヤロン、およびシャアルビムに住み続けた。しかしヨセフの家の手が力を持ったため、彼らは強制労働に服するようになった。

36 アモリ人の境界は、アクラビムの坂、すなわち岩から上であった。

2

1 主の使いがギルガルからボキムに上って来て言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、あなたがたの父祖たちに誓っ

た地に導き入れた。そしてわたしは言った。『わたしはあなたがたとの契約を決して破らない。

²あなたがたはこの地の住民と契約を結んではならない。あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊さなければならない。』しかし、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。

³それゆえ、わたしもまた言った。『わたしは彼らをあなたがたの前から追い出さない。彼らはあなたがたのわき腹のとげとなり、彼らの神々はあなたがたにとって罠となるであろう。』

⁴主の使いがこれらの言葉をイスラエルのすべての人々に語ったとき、民は声を上げて泣いた。

⁵彼らはその場所の名をボキム*と呼び、そこで主にいけにえをささげた。

⁶さて、ヨシュアが民を去らせたとき、イスラエルの人々はその地を所有するために、それぞれ自分の所有地へと行った。

⁷民はヨシュアの生きている間、また、ヨシュアより長生きし、主がイスラエルのために行われたすべての偉大なみわざを見た長老たちの生きている間、主に仕えた。

⁸主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは、百十歳で死んだ。

⁹人々は、エフライムの山地、ガアシュ山の北にあるティムナテ・ヘレスにある彼の所有地の境に彼を葬った。

¹⁰また、その世代の者たちも皆その父祖たちのところに集められ、彼らの後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたみわざも知らない別の世代が起こった。

* 2:5 2:5 「ボキム」は「泣く者たち」を意味する。

11 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、バアルに仕え、

12 彼らをエジプトの地から導き出された彼らの父祖たちの神、主を捨て、周囲にいる国々の民の神々である他の神々に従い、それにひれ伏した。こうして彼らは主を怒らせた。

13 彼らは主を捨て、バアルとアシュタロテに仕えた。

14 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、彼らを略奪する略奪者たちの手に渡し、また周囲の敵の手に彼らを売り渡された。そのため、彼らはもはや敵の前に立つことができなかった。

15 彼らが出て行くところはどこでも、主が語られたとおり、また主が彼らに誓われたとおりに、主の手が彼らに逆らってわざわいを下した。そして彼らは激しく苦しめられた。

16 主は士師たちを起こし、略奪する者たちの手から彼らを救い出された。

17 しかし彼らは、自分たちの士師たちにも聞き従わず、他の神々を慕って淫行を行い、それにひれ伏した。彼らは、父祖たちが主の戒めに聞き従って歩んだ道から速やかにそれて行き、父祖たちのようには行わなかった。

18 主が彼らのために士師たちを起こされたとき、主はその士師とともにおられ、その士師の生きている間、彼らを敵の手から救い出された。彼らをしいたげ、苦しめる者たちのゆえに彼らがうめいたため、主が心を痛められたからである。

19 しかし士師が死ぬと、彼らは戻って行き、他の神々に従ってそれに仕え、ひれ伏すことによって、自分たちの父祖たちよりもさらに墮落した振る舞いをした。彼らは自分たちの行いや、かたくなな歩みから離れなかった。

20 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は言われた。「この民は、わたしが彼らの父祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたしの声に聞き従わなかった。

21 ゆえに私もまた、ヨシュアが死んだときに残しておいた国々のうちのどれ一つとして、もはや彼らの前から追い出さない。

22 それは、彼らの父祖たちが主の道を守って歩んだように、彼らもそれを守って歩むかどうか、彼らによってイスラエルを試みるためである。」

23 それゆえ主は、それらの国々をすぐに追い出すことなく残しておかれた。主は彼らをヨシュアの手に渡されなかったのである。

3

1 カナンのすべての戦いを知らなかったすべての者を彼らによって試みるために、主が残しておかれた国々は次のとおりである。

2 それはただ、以前には戦いを知らなかったイスラエルの人々の世代に、戦いを教えてそれを知らせるためであった。

3 ペリシテ人の五人の君主、すべてのカナン人、シドン人、およびバアル・ヘルモン山からハマテの入り口に至るまでのレバノン山に住むヒビ人である。

4 彼らが残されたのは、彼らによってイスラエルを試み、主がモーセを通して彼らの父祖たちに命じられた主の戒めに、彼らが聞き従うかどうかを知るためであった。

5 イスラエルの人々はカナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人の間に住んだ。

6 彼らはその娘たちを自分たちの妻としてめとり、自分たちの娘たちを彼らの息子たちに与え、彼らの神々に仕えた。

7 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、自分たちの神、主を忘れ、バアルとアシェラに仕えた。

8 それゆえ、主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをメソポタミアの王クシャン・リシュアタイムの手に売り渡された。イスラエルの人々は八年の間、クシャン・リシュアタイムに仕えた。

9 イスラエルの人々が主に向かって叫び求めると、主はイスラエルの人々のために一人の救い主を起し、彼らを救い出された。すなわちカレブの弟であるケナズの子オトニエルである。

10 主の霊が彼の上に臨み、彼はイスラエルをさばいた。彼が戦いに出て行くと、主はメソポタミアの王クシャン・リシュアタイムを彼の手の内に渡された。彼の手はクシャン・リシュアタイムに対して力を持った。

11 その地は四十年の間、安息を得た。そしてケナズの子オトニエルは死んだ。

12 イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行なった。彼らが主の目に悪であることを行なったため、主はモアブの王エグロンをイスラエルに対して強くされた。

13 エグロンはアンモンの子らとアマレクを自分のところに集め、行ってイスラエルを打ち、なつめやしの町を所有した。

14 イスラエルの人々は十八年の間、モアブの王エグロンに仕えた。

15 しかしイスラエルの人々が主に向かって叫び求めたとき、主は彼らのために一

人の救い主を起こされた。ベニヤミン人であるゲラの子で、左利きの男エフドである。イスラエルの人々は彼を通してモアブの王エグロンに貢ぎ物を送った。

¹⁶ エフドは自分のために、長さ一キュビト*の諸刃の剣を作り、それを自分の右の太ももの服の下に帯びた。

¹⁷ 彼はモアブの王エグロンに貢ぎ物をささげた。エグロンは非常に太った人であった。

¹⁸ 彼が貢ぎ物をささげ終えたとき、彼は貢ぎ物を運んできた人々を去らせた。

¹⁹ しかし彼自身はギルガルのそばにある石の偶像のところから引き返し、「王よ、あなたに秘密の用件があります」と言った。

王は「静かにせよ」と言った。彼のそばに立っていた者たちは皆、彼の前から出て行った。

²⁰ エフドが彼のもとに近づいて行くと、王は涼しい階上の部屋に一人で座っていた。エフドは「あなたに神からの言葉があります」と言った。王は座から立ち上がった。

²¹ エフドは左手を伸ばし、右の太ももから剣を抜き取って、彼の腹に突き刺した。

²² 柄も刃に続いて入り込み、脂肪が刃を閉ざした。彼がその剣を腹から引き抜かなかったため、それは背中の方へと突き出た。

²³ それからエフドは玄関の間に出て行き、自分の後ろで階上の部屋の戸を閉めて鍵をかけた。

²⁴ 彼が出て行くと、王のしもべたちがやって来た。彼らが見ると、見よ、階上の部屋の戸には鍵がかけられていた。そこで彼らは、「きっとあ

* **3:163:16** 一キュビトは男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメートル、

の方は階上の涼しい部屋で用を足しておられる[†]のだ」と言った。

²⁵ 彼らは恥じ入るまで待ったが、見よ、王は階上の部屋の戸を開けなかった。それゆえ彼らは鍵を取ってそれを開けた。すると見よ、彼らの主君は床に倒れて死んでいた。

²⁶ エフドは彼らが待っている間に逃げ、石の偶像をとおり過ぎてセイラへ逃れた。

²⁷ 彼がそこに着いたとき、彼はエフライムの山地で角笛を吹き鳴らした。そしてイスラエルの人々は彼と一緒に山地から下って行き、彼は彼らを率いた。

²⁸ 彼は彼らに言った。「私に付いて来なさい。主があなたがたの敵であるモアブ人をあなたがたの手に渡されたからである。」彼らは彼の後に付いて下って行き、モアブ人に向かってヨルダン川の浅瀬を攻め取り、一人も渡らせなかった。

²⁹ そのとき、彼らはモアブ人を約一万人打ち倒した。みな強靱な者、みな勇士であった。逃げ延びた者は一人もいなかった。

³⁰ こうしてその日、モアブはイスラエルの手の下に服従した。そしてその地は八十年の間、安息を得た。

³¹ 彼の後にはアナテの子シャムガルがいた。彼は牛追い棒でペリシテ人を六百人打ち倒した。彼もまたイスラエルを救った。

4

¹ エフドが死ぬと、イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行った。

² そこで主は彼らを、ハツオルで治めていたカナンの王ヤビンの手に売り渡された。彼の軍の長はシ

[†] 3:24 3:24 直訳では「足を覆っている」。

セラであり、彼は異邦人のハロシェテに住んでいた。

³ イスラエルの人々は主に向かって叫び求めた。彼が鉄の戦車九百両を持っており、二十年の間、イスラエルの人々を激しくしいたげたからである。

⁴ そのとき、女預言者でラピドテの妻であるデボラがイスラエルをさばいていた。

⁵ 彼女はエフライムの山地にあるラマとベテルの間のデボラのなつめやしの木の下に住んでいた。そしてイスラエルの人々はさばきのために彼女のところに上って来た。

⁶ 彼女は人を遣わして、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、主はこう命じられたではないか。『行き、ナフタリの子らとゼブルンの子らの中から一万人を率いて、タボル山へ進軍せよ。』」

⁷ わたしはヤビンの軍の長シセラと、その戦車およびその大軍を、キシヨン川のあなたのもとに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す。』」

⁸ バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行くなら、わたしは行きます。しかし、もしあなたが私と一緒に行かないなら、わたしは行きません。」

⁹ 彼女は言った。「わたしは必ずあなたと一緒に行きます。しかし、あなたがこれから行く道は、あなたの名誉とはなりません。主がシセラを一人の女の手売り渡されるからです。」こうしてデボラは立ち上がり、バラクと一緒にケデシュへ行った。

¹⁰ バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集めた。一万人が彼の後に従って行き、デボラも彼と一緒に上って行った。

11 さて、ケニ人へベルは、モーセの義理の兄弟であるホバブの子孫であるケニ人から離れ、ケデシュのそばにあるツァアナニムの櫟の木の傍らに天幕を張っていた。

12 人々は、アビノアムの子バラクがタボル山に上ったことをシセラに告げた。

13 シセラは、すべての戦車、すなわち九百両の鉄の戦車と、自分と一緒にいるすべての民を、異邦人のハロシェテからキシヨン川へと呼び集めた。

14 デボラはバラクに言った。「立ち上がりなさい。今日こそ、主がシセラをあなたの手に渡される日です。主はあなたの前に出て行かれたではありませんか。」そこでバラクはタボル山から下り、一万人が彼に従った。

15 主はシセラと、そのすべての戦車とすべての軍勢を、バラクの前で剣の刃によって混乱に陥れられた。シセラは戦車から降り、徒歩で逃げ去った。

16 しかしバラクは戦車と軍勢を追って異邦人のハロシェテまで行き、シセラの全軍勢は剣の刃に倒れた。一人も残る者はなかった。

17 しかしシセラは徒歩でケニ人へベルの妻ヤエルの天幕へ逃げ去った。ハツオルの王ヤビンとケニ人へベルの家との間には平和があったからである。

18 ヤエルはシセラを迎えに出て、彼に言った。「お入りください、ご主人様。私のところにお入りください。恐れることはありません。」そこで彼が彼女の天幕に入ると、彼女は彼を敷物で覆った。

19 彼は彼女に言った。「どうか、わたしに少し水を飲ませてほしい。喉が渴いているのだ。」

彼女は乳の皮袋を開けて彼に飲ませ、彼を覆った。

20 彼は彼女に言った。「天幕の入り口に立っていてほしい。もしだれかが来てあなたに、『ここにだれかいるか』と尋ねたら、あなたは『いない』と言わなければならない。」

21 それからヘベルの妻ヤエルは天幕の杭を取り、手に槌を持ち、彼に気付かれないように近づいて、その杭を彼のこめかみに打ち込み、地面にまで突き刺した。彼は疲れ果てて深い眠りに落ちていた。こうして彼は死んだ。

22 見よ、バラクがシセラを追って来たとき、ヤエルは彼を迎えに出て、彼に言った。「来なさい。あなたが探している男を見せましょう。」彼が彼女のところに入ると、見よ、シセラは死んで倒れており、そのこめかみには天幕の杭があった。

23 こうして神はその日、イスラエルの人々の前でカナンの王ヤビンを服従させられた。

24 イスラエルの人々の手はカナンの王ヤビンに対してますます力を持つようになり、ついにはカナンの王ヤビンを滅ぼした。

5

1 その日、デボラとアビノアムの子バラクは歌って言った。

2 「イスラエルで指導者たちが先頭に立ち、
民が進んで身をささげたゆえに。
主をほめたたえよ。

3 「聞け、王たちよ。
耳を傾けよ、君主たちよ。

わたしは、このわたしは、主に向かって歌う。
わたしはイスラエルの神、主をほめ歌う。

- 4 主よ。あなたがセイルから出て行かれたとき、
エドムの野から進軍されたとき、
地は揺れ動き、天もまた滴った。
そうだ、雲は水を滴らせた。
- 5 山々は主の御前に揺れ動き、
あのシナイも、イスラエルの神、主の御
前に揺れ動いた。
- 6 アナテの子シャムガルの時代、
ヤエルの時代に、大とおりは途絶え、
旅人はわき道を歩んだ。
- 7 イスラエルにおいて指導者は絶え、
わたし、デボラが立ち上がるまで絶えていた。
わたしがイスラエルの母として立ち上がるま
で。
- 8 彼らは新しい神々を選んだ。
そのとき、戦いは門のところにあつた。
イスラエルの四万人のうちで、盾や槍が見られ
ただろうか。
- 9 わたしの心はイスラエルの指揮官たちに向けられ
ている。
彼らは民の中で進んで身をささげた。
主をほめたたえよ。
- 10 語れ。白い小ろばに乗る者たちよ。
豪華な敷物に座る者たちよ。
道を歩む者たちよ。
- 11 弓を射る者たちの騒音から遠く離れた、
水を汲む場所で、
彼らはそこで主の正しい行いを、
イスラエルにおけるその支配における正し
い行いを語り伝える。

そのとき、主の民は門に下って行った。

- 12 『起きよ、起きよ、デボラ。
起きよ、起きよ、歌を歌え。
立ち上がれ、バラクよ。アビノアムの子よ、あ
なたの捕虜を引き連れて行け。』
- 13 そのとき、貴族たちと民の残りの者が下っ
て来た。
主は力ある者たちに立ち向かうため、わたしの
ために下って来られた。
- 14 その根をアマレクに持つ者たちが、エフライムか
ら出て来た。
ベニヤミンよ、あなたの民に混じって、あなた
の後を追った。
- マキルからは指揮官たちが下って来た。
ゼブルンからは司令官の杖を握る者たち
が出て来た。
- 15 イッサカルの君主たちはデボラとともにいた。
イッサカルと同様に、バラクもそうであった。
彼らは彼の足跡に従って谷へ駆け下りた。
- ルベンの水路のほとりでは、
心に大きな決断があった。
- 16 あなたはなぜ羊の囲いの中に座っていたのか。
羊の群れを呼ぶ笛の音を聞くためか。
- ルベンの水路のほとりでは、
心に大きな探求があった。
- 17 ギルアデはヨルダン川の向こうに留まった。
ダンはなぜ船に留まっていたのか。
アシェルは海辺に座したまま、
その入り江に留まった。
- 18 ゼブルンは死を顧みず命を死にさらした民であ
る。
ナフタリもまた、野の高台でそうであった。

- 19 王たちが来て戦った。
そのとき、カナンの王たちはメギドの水辺にある
タアナクで戦った。
彼らは銀の分捕り品を得なかった。
- 20 天からは星々が戦った。
その軌道から、シセラに対して戦った。
- 21 キション川が彼らを押し流した。
あの古の川、キション川が。
わが魂よ、力強く進み行け。
- 22 そのとき、馬のひづめは踏み鳴らされた。
その力強い馬たちが躍り上がったからである。
- 23 『メロズをのろえ』と主の使いは言った。
『その住民を激しくのろえ。
彼らは主を助けるために、
力ある者たちに立ち向かう主を助けるため
に来なかったからだ。』
- 24 ケニ人ヘベルの妻ヤエルは、
女たちの中で最も幸いである。
天幕に住む女たちの中で最も幸いである。
- 25 彼は水を求めた。
彼女は乳を与えた。
彼女は高貴な器で凝乳を持って来た。
- 26 彼女は天幕の杭に手を伸ばし、
右手を職人の槌に伸ばした。
彼女は槌でシセラを打った。
彼女は彼の頭を打ち抜いた。
そうだ、彼女はそのこめかみを刺し貫いて
打ち砕いた。
- 27 彼女の足元に彼はうずくまり、倒れ、横たわった。
彼女の足元に彼はうずくまり、倒れた。
うずくまったその場所で、彼は倒れて死んだ。

- 28 窓から彼女は見つめ、叫んだ。
シセラの母は格子窓から見つめた。
『彼の戦車は来るのがなぜこれほど遅いのか。
なぜ彼の戦車の車輪は遅れているのか。』
- 29 賢い侍女たちは彼女に答え、
そうだ、彼女も自らに返答した。
- 30 『彼らは分捕り品を見つけて、分けているのではないか。
男一人につき、一人か二人の女を。
シセラには色染めの衣の分捕り品を。
刺繍された色染めの衣の分捕り品を。
分捕り品として首に掛ける、両面刺繍された色染めの衣を。』
- 31 「主よ、あなたのすべての敵がこのように滅びますように。
しかし、主を愛する者たちが、力強く昇る太陽のようになりますように。」

その後、その地は四十年の間、安息を得た。

6

- 1 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、それゆえ主は彼らを七年の間ミディアンの手に渡された。
- 2 ミディアンの手はイスラエルに対して力を持った。ミディアンのゆえに、イスラエルの人々は山にあるほら穴、洞窟、そして要害を自分たちのために作った。
- 3 イスラエルが種を蒔いたとき、ミディアン人、アマレク人、そして東の人々が彼らに対して上って来た。

4 彼らは陣を敷いて、ガザに至るまでの地の産物を滅ぼした。彼らはイスラエルに命の糧を残さず、羊も、牛も、ろばも残さなかった。

5 彼らは自分たちの家畜と天幕を持って上って来たからである。彼らは群れをなすいなごのように入って来た。彼らもそのらくだも数えきれないほどであり、彼らはその地を滅ぼすために入って来た。

6 イスラエルはミディアンのゆえに非常に低くされた。そこでイスラエルの人々は主に向かって叫び求めた。

7 イスラエルの人々がミディアンのゆえに主に向かって叫び求めたとき、

8 主はイスラエルの人々に一人の預言者を遣わされた。彼は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、奴隷の家から導き出した。

9 わたしはあなたがたをエジプト人の手と、あなたがたをしいたげるすべての者の手から救い出し、あなたがたの前から彼らを追い払い、彼らの地をあなたがたに与えた。

10 わたしはあなたがたに言った。「わたしはあなたがたの神、主である。あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々を恐れてはならない。」しかし、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。』」

11 主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属する、オフラにある櫟の木の下に座った。そのとき、彼の子ギデオンはミディアン人から隠すために、酒ぶねで小麦を打っていた。

12 主の使いが彼に現れて言った。「勇士よ、主はあなたとともにおられる。」

13 ギデオンは彼に言った。「ああ、わが主よ。もし主が私たちとともにおられるなら、なぜこれらすべてのことが私たちに降りかかったのでしょうか。私たちの父祖たちが、『主は私たちをエジプトから導き上られたではないか』と言って私たちに語り伝えた、あのすべての驚くべきみわざはどこにあるのでしょうか。しかし今、主は私たちを見捨て、ミディアンの手に渡されました。」

14 主は彼に目を向けて言われた。「あなたのその力をもって行き、イスラエルをミディアンの手から救い出しなさい。わたしがあなたを遣わしたではないか。」

15 彼は彼に言った。「主よ、* 私はどうやってイスラエルを救うことができるでしょうか。見よ、私の氏族はマナセの中で最も貧しく、私は父の家で最も取るに足りない者です。」

16 主は彼に言われた。「わたしは必ずあなたとともにいる。あなたは一人の人を打つように、ミディアン人を打つであろう。」

17 彼は言った。「もし今、私があなたの目に恵みを得たのであれば、私と語っているのがあなたであるというしるしを私に見せてください。」

18 どうか、私があなたのもとに戻り、私の贈り物を持って来てあなたの前に供えるまで、ここから立ち去らないでください。」

主は言われた。「あなたが戻って来るまで、わたしは待とう。」

19 ギデオンは家に入り、子やぎ一匹と一エパ†の粉で種なしパンを用意した。彼はその肉をかこ

* 6:15 6:15 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。 † 6:19 6:19 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

に入れ、吸い物を鉢に入れ、それを
樫の木の下の彼のもとに持って来て、供えた。

20 神の使いは彼に言った。「その肉と種なしパン
を取り、この岩の上に置き、吸い物を注ぎなさい。」

彼はそうにした。

21 すると主の使いは、手に持っていた
杖の先を伸ばし、肉と種なしパンに触れた。すると
岩から火が燃え上がり、肉と種なしパン
を焼き尽くした。そして主の使いは彼の目の前から
見えなくなった。

22 ギデオンは彼が主の使いであったことに気づ
き、ギデオンは言った。「ああ、主なる神よ。わたしは
顔と顔を合わせて主の使いを見てしまいました。」

23 主は彼に言われた。「あなたに平安があるよう
に。恐れるな。あなたは死ぬことはない。」

24 そこでギデオンはその場所に主のための祭
壇を築き、それを「主は平安」[‡]
と名付けた。今日に至るまで、それはアビエゼ
ル人のオフラにまだある。

25 その同じ夜、主は彼に言われた。「あなた
の父の雄牛、すなわち七歳の二番目の雄
牛を取り、あなたの父の持つバアルの祭
壇を打ち壊し、そのそばにあるアシェ
ラ像を切り倒しなさい。

26 それから、この要害の頂に、定められた方法で
あなたの神、主のための祭壇を築きなさい。そして
あの二番目の雄牛を取り、あなたが切り倒すアシェ
ラ像の木を使って全焼のささげ物をささげなさい。」

[‡] 6:24 6:24 または「シャローム」。

27 そこでギデオンはしもべたちの中から十人の者を取り、主が彼に語られたとおりに行った。彼は父の家の者たちや町の人々を恐れたため、昼にそれを行うことができず、夜にそれを行った。

28 町の人々が朝早く起きると、見よ、バアルの祭壇は打ち壊され、そのそばのアシェラ像は切り倒され、築かれた祭壇の上には二番目の雄牛がささげられていた。

29 彼らは互いに言った。「だれがこんなことをしたのか。」

彼らが調べて尋ねると、人々は言った。「ヨアシュの子ギデオンがこのことをしたのだ。」

30 そこで町の人々はヨアシュに言った。「あなたの息子を引き出しなさい。彼は死ななければならない。彼がバアルの祭壇を打ち壊し、そのそばにあったアシェラ像を切り倒したからだ。」

31 ヨアシュは彼に立ち向かうすべての者に言った。「あなたがたはバアルのために争うのか。あるいは彼を救おうとするのか。彼のために争う者は、朝までに死刑に処せられるべきである。もし彼が神であるなら、自分の祭壇が打ち壊されたのだから、彼自身に争わせればよい。」

32 それゆえその日、彼はギデオンをエルバアル[§]と名付けて言った。「彼が祭壇を打ち壊したのだから、バアル自身に彼と争わせよ。」

33 その後、すべてのミディアン人、アマレク人、そして東の人々がともに集まり、川を渡ってエズレルの谷に陣を敷いた。

34 しかし主の霊がギデオンの上に臨み、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼルが召集されて彼に従った。

§ 6:32 6:32 「エルバアル」は「バアルに争わせよ」という意味である。

35 彼はマナセの全域に使者を遣わし、彼らもまた召集されて彼に従った。彼はアシエル、ゼブルン、そしてナフタリにも使者を遣わし、彼らも迎えるに上って来た。

36 ギデオンは神に言った。「あなたが語られたとおりに、もし私の手によってイスラエルをお救いになるのであれば、

37 見よ、私は打ち場に羊の毛一束を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降り、他のすべての地面が乾いていれば、あなたが語られたとおりに、私の手によってイスラエルをお救いになることが私に分かります。」

38 するとそのようになった。彼が翌朝早く起きてその羊の毛を押し絞ると、羊の毛から露が絞り出され、鉢に一杯の水となった。

39 ギデオンは神に言った。「どうか、私に向かって怒りを燃やさないでください。この一度だけ言わせてください。どうか、この羊の毛でもう一度だけ試させてください。今度は羊の毛だけが乾いていて、他のすべての地面には露が降りますように。」

40 神はその夜、そのようにされた。すなわち、羊の毛だけが乾いていて、他のすべての地面には露が降りていた。

7

1 そのとき、エルバアルすなわちギデオンと、彼と一緒にいたすべての民は朝早く起き、ハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミディアン人の陣営は彼の北側、谷にあるモレの丘のそばにあった。

2 主はギデオンに言われた。「あなたと一緒にいる民は多すぎるため、私はミディアン人を彼らの手に渡さない。イスラエルがわたしに対し

て誇り、『自分の手が自分を救ったのだ』と言うといけないからである。

³それゆえ今、民の耳に宣言して、『恐れおののいている者は皆、帰ってギルアデ山から去りなさい』と言いなさい。」そこで民のうち二万二千人が帰り、一万人が残った。

⁴主はギデオンに言われた。「民はまだ多すぎる。彼らを水辺に連れて下りなさい。わたしはそこであなたのために彼らを試みる。私があなたに『この者はあなたと一緒に行くべきである』と言う者は、あなたと一緒に行く。また私があなたに『この者はあなたと一緒に行くべきではない』と言う者は、行ってはならない。」

⁵そこで彼は民を水辺に連れて下った。主はギデオンに言われた。「犬がなめるように、舌で水をなめる者は皆、別にしておきなさい。ひざまずいて水を飲む者も皆、同様にせよ。」

⁶手を口に当てて水をなめた者の数は三百人であった。しかし、民の残りの者は皆、ひざまずいて水を飲んだ。

⁷主はギデオンに言われた。「わたしは、水をなめた三百人によってあなたがたを救い、ミディアン人をあなたの手へ渡す。残りの民は皆、それぞれ自分の所に帰らせなさい。」

⁸そこで民は手に食料と角笛を持った。彼はイスラエルの他のすべての者をそれぞれの天幕へ帰らせたが、その三百人はとどまらせた。ミディアンの陣営は彼の下谷にあった。

⁹その同じ夜、主は彼に言われた。「立ち上がって、陣営へ下って行きなさい。わたしはそれをあなたの手へ渡したからである。」

¹⁰しかし、もし下って行くのを恐れるなら、あなたのしもべプラと一緒に陣営へ下って行きなさい。

11 あなたは彼らが何を言っているかを聞くであろう。その後、あなたの手は強められて陣営へ下って行くことができる。」そこで彼はしもペプラと一緒に、陣営にいる武装した者たちの最も外側の場所へ下って行った。

12 ミディアン人、アマレク人、そしてすべての東の人々は、いなごのように大群をなして谷に横たわっていた。彼らのらくだも数えきれないほどであり、海辺にある砂のように大群であった。

13 ギデオンが来たとき、見よ、一人の男が仲間間に夢を語っていた。彼は言った。「見よ、わたしは夢を見た。見よ、大麦のパンのかたまりがミディアンの陣営に転がって来て、天幕にぶつかるとそれは倒れ、ひっくり返って天幕は平らになってしまった。」

14 その仲間は答えて言った。「これはイスラエルの人、ヨアシュの子ギデオンの剣以外の何ものでもない。神はミディアンとその全軍を彼の手に渡されたのだ。」

15 ギデオンはその夢の話とその解き明かしを聞いたとき、ひれ伏して礼拝した。それから彼はイスラエルの陣営に戻って言った。「立ち上がりなさい。主はミディアンの陣営をあなたがたの手に渡された。」

16 彼は三百人を三つの部隊に分け、彼ら全員の手角笛と空の壺、そして壺の中にたいまつを持たせた。

17 彼は彼らに言った。「私を見て、そのとおりにしなさい。見よ、私が陣営の最も外側の場所に着いたとき、私がするように、あなたがたもそのとおりにしなければならない。」

18 わたしと、私と一緒にいるすべての者が角笛を吹き鳴らしたとき、あなたがたもまた全陣

営の周囲で角笛を吹き鳴らし、『主のため、ギデオンのため』と叫びなさい。」

19 ギデオンと、彼と一緒にいた百人の者たちは、真夜中の見張りの初めに陣営の最も外側の場所に来た。彼らがちょうど見張りを交替した時であった。彼らは角笛を吹き鳴らし、手に持っていた壺を打ち砕いた。

20 三つの部隊は角笛を吹き鳴らして壺を打ち砕き、左手にたいまつを、右手に吹き鳴らす角笛を持って、「主の剣、ギデオンの剣」と叫んだ。

21 彼らは陣営の周囲でそれぞれ自分の持ち場に立った。すると全軍は走り回り、叫び声を上げて逃げ去った。

22 彼らが三百の角笛を吹き鳴らすと、主は全軍において、おのおのの剣をその仲間に向けさせられた。軍勢はツエレラに向かってベテ・シタまで、タバテのそばのアベル・メホラの境界まで逃げた。

23 イスラエルの人々は、ナフタリ、アシェル、および全マナセから呼び集められ、ミディアンを追撃した。

24 ギデオンはエフライムの山地全体に使者を遣わして言った。「下って来てミディアン人を迎え撃ち、ベテ・バラに至るまでの水場とヨルダン川を彼らより先に押さえなさい。」そこでエフライムのすべての人々が呼び集められ、ベテ・バラに至るまでの水場とヨルダン川を押さえた。

25 彼らはミディアンの二人の君主、オレブとゼエブを捕らえた。そしてオレブをオレブの岩で殺し、ゼエブをゼエブの酒ぶねで殺した。彼らはミディアンを追撃し、ヨルダン川の向こうにいるギデオンのところにオレブとゼエブの首を持って来た。

8

¹ エフライムの人々は彼に言った。「ミディアンと戦いに行くとき、私たちを呼ばなかったとは、なぜ私たちにこのような扱いをしたのか。」そして彼らは彼を激しく責め立てた。

² 彼は彼らに言った。「今私がしたことは、あなたがたに比べれば何だろうか。エフライムのぶどうの落ち穂拾いは、アビエゼルのぶどうの収穫にまさるではないか。」

³ 神はミディアンの君主たち、オレブとゼエブをあなたがたの手に渡された。私がしたことは、あなたがたに比べれば何ができただろうか。」彼がそう言ったとき、彼に対する彼らの怒りは和らいだ。

⁴ ギデオンはヨルダン川に来てそれを渡った。彼と、彼と一緒にいた三百人の者たちは疲れ果てていたが、なおも追撃していた。

⁵ 彼はスコテの人々に言った。「どうか、私について来ている民にパンのかたまりを与えてほしい。彼らは疲れ果てており、私はミディアンの王たち、ゼバとツアルムナの後を追撃しているからだ。」

⁶ スコテの君主たちは言った。「ゼバとツアルムナの手がすでにあなたの手の中にあるとでもいうのか。私たちがあなたの軍勢にパンを与えなければならぬとは。」

⁷ ギデオンは言った。「それゆえ、主がゼバとツアルムナを私の手に渡されたとき、私は荒野のいばらと野ばらであなたがたの肉を裂く。」

⁸ 彼はそこからペヌエルへ上って行き、彼らにも同じように語った。ペヌエルの人々も、スコテの人々が答えたのと同じように彼に答えた。

⁹ 彼はペヌエルの人々にも語って、「私が無事に帰って来るとき、この塔を打ち壊す」と言った。

10 さて、ゼバとツアルムナはカルコルにおり、
彼らの軍勢も彼らと一緒にいた。それは約一万五千人で、東の人々の全軍勢のうち残ったすべての者であった。剣を抜くことのできる者十二万人が倒れていたからである。

11 ギデオンはノバとヨグベハの東にある、天幕に住む者たちの道を通って上って行き、その軍勢を打った。軍勢が安心しきっていたからである。

12 ゼバとツアルムナは逃げたが、彼は彼らを追撃した。彼はミディアンの二人の王、ゼバとツアルムナを捕らえ、全軍勢を混乱に陥れた。

13 ヨアシュの子ギデオンは、ヘレスの坂道を通して戦いから帰って来た。

14 彼はスコテの人々のうちの一人の若者を捕らえて尋問した。その若者は彼のために、スコテの君主たちと長老たち、七十七人の名を書き記した。

15 彼はスコテの人々のところに来て言った。「見よ。あなたがたが私をののしって、『ゼバとツアルムナの手がすでにあなたの手の中にあるとでもいうのか。私たちがあなたの疲れた者たちにパンを与えなければならないとは』と言った、そのゼバとツアルムナである。」

16 彼はその町の長老たちを取り、荒野のいばらと野ばらを取って、それでスコテの人々を懲らしめた。

17 また彼はペヌエルの塔を打ち壊し、その町の人々を殺した。

18 それから彼はゼバとツアルムナに言った。「おまえたちがタボルで殺した者たちは、どのような男たちであったか。」

彼らは答えた。「彼らはあなたのようにでした。一人一人が王の子のようにでした。」

19 彼は言った。「彼らは私の兄弟であり、私の母の息子たちであつた。主は生きておられる。もしおまえたちが彼らを生かしておいてくれたなら、私はおまえたちを殺しはしない。」

20 彼は長子エテルに「立って、彼らを殺せ」と言った。しかし若者は剣を抜かなかつた。彼はまだ若かつたため、恐れたのである。

21 するとゼバとツアルムナは言った。「あなたが立って、私たちを撃ちなさい。人の力は、その人自身に応じるものだからである。」ギデオンは立ち上がってゼバとツアルムナを殺し、彼らのらくだの首にあつた三日月形の飾りを取った。

22 その後、イスラエルの人々はギデオンに言った。「あなたも、あなたの子も、あなたの孫も私たちを治めてください。あなたが私たちをミディアンの手から救い出してくださったからです。」

23 ギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めない。私の子もあなたがたを治めない。主があなたがたを治められる。」

24 ギデオンはさらに彼らに言った。「あなたがたに一つ願いがある。あなたがたはそれぞれ、分捕り品の中から耳輪をわたしに与えてほしい。」（彼らはイシュマエル人であつたため、金の耳輪を持っていたのである。）

25 彼らは答えた。「喜んで差し上げます。」彼らが上着を広げると、それぞれが分捕り品の中から耳輪をそこに投げ入れた。

26 彼が求めた金の耳輪の重さは、金一千七百シェケル*であつた。そのほかに、三日月形の飾り、首

* 8:26 8:26 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。一千七百シェケル

飾り、ミディアンの人たちが着ていた紫色の衣、またそのらくだの首にあった鎖があった。

27 ギデオンはそれからエポデを作り、自分の町オフラにそれを置いた。すると全イスラエルがそこでそれに慕って淫行を行い、それはギデオンとその家の罠となった。

28 こうしてミディアンはイスラエルの人々の前で服従させられ、彼らはもはや頭を上げなかった。ギデオンの時代、その地は四十年の間、安息を得た。

29 ヨアシュの子エルバアルは行って、自分の家に住んだ。

30 ギデオンにはその身から生まれた七十人の息子がいた。彼には多くの妻がいたからである。

31 シェケムにいた彼のそばめも彼に男の子を産み、彼はその子をアビメレクと名付けた。

32 ヨアシュの子ギデオンは長寿を全うして死に、アビエゼル人のオフラにある、彼の父ヨアシュの墓に葬られた。

33 ギデオンが死ぬとすぐに、イスラエルの人々は再び背いてバアルを慕って淫行を行い、バアル・ベリテを自分たちの神とした。

34 イスラエルの人々は、周囲のすべての敵の手から自分たちを救い出してくださった自分たちの神、主を思い出さなかった。

35 また彼らは、ギデオンすなわちエルバアルの家に対し、彼がイスラエルに示したすべての良いことに応じて慈しみを示すこともなかった。

9

1 エルバアルの子アビメレクはシェケムにいる母の兄弟たちのところに行き、彼ら

や彼の母の父の家の全氏族に語って言った。

2 「どうか、シェケムのすべての人々の耳に語ってほしい。『あなたがたにとって、エルバアルの息子たち七十人全員があなたがたを治めるのと、一人の人が治めるのとでは、どちらが良いか。』また私が、あなたがたの骨であり、肉であることを思い起こしなさい。」

3 そこで彼の母の兄弟たちは、彼についてこれらすべての言葉をシェケムのすべての人々の耳に語った。彼らの心はアビメレクに従うことに傾いた。彼らが、「彼は私たちの兄弟だ」と言ったからである。

4 彼らはバアル・ベリテの宮から彼に銀七十枚を与えた。アビメレクはそれで、軽薄で無頼な者たちを雇い、彼らは彼に従った。

5 彼はオフラにある彼の父の家へ行き、エルバアルの息子たちである彼の兄弟七十人を一つの石の上で殺した。ただ、エルバアルの末の息子ヨタムだけは残った。彼が身を隠したからである。

6 シェケムのすべての人々とミロの全家はともに集まり、行って、シェケムにある柱の檜の木の下でアビメレクを王とした。

7 人々がヨタムにそれを告げると、彼は行ってゲリジム山の頂に立ち、声を上げて叫び、彼らに言った。「わたしに聞き従いなさい、シェケムの人々よ。そうすれば神があなたがたに聞き従ってくださる。

8 木々が自分たちの上に王を油注いで立てるために出かけて行った。彼らはオリーブの木に言った。『私たちを治めてくれ。』

9 しかしオリーブの木は彼らに言った。『神と人をあがめるために用いる私の油を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないの

だろうか。』

¹⁰ 木々はいちじくの木に言った。『来て、私たちを治めてくれ。』

¹¹ しかしいちじくの木は彼らに言った。『私の甘さとその良い実を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないのだろうか。』

¹² 木々はぶどうの木に言った。『来て、私たちを治めてくれ。』

¹³ ぶどうの木は彼らに言った。『神と人を喜ばせる私の新しいぶどう酒を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないのだろうか。』

¹⁴ そこで、すべての木々はいばらに言った。『来て、私たちを治めてくれ。』

¹⁵ いばらは木々に言った。『もし本当に、あなたがたがわたしを油注いであなたがたの王とするなら、来て、私の陰に身を避けなさい。そうでないなら、火がいばらから出て、レバノンの杉を焼き尽くすように。』

¹⁶ それゆえ今、あなたがたがアビメレクを王としたことにおいて、誠実と真実をもって事を行ったのであれば、また、あなたがたがエルバアルとその家に対して良くし、彼の手の働きにふさわしく彼にしたのであれば

¹⁷ （私の父はあなたがたのために戦い、命を懸けて、ミディアンの手からあなたがたを救い出した。

¹⁸ なのにあなたがたは今日、私の父の家に逆らって立ち上がり、その息子たち七十人を一つの石の上で殺し、彼の女奴隷の息子であるアビメレクがあなたがたの兄弟であるという理由で、彼をシエケムの人々の王とした）、

¹⁹ もしあなたがたが今日、エルバアルとその家に対して誠実と真実をもって事を行ったのであれば

れば、アビメレクを喜びなさい。彼もまた、あなたがたを喜ぶように。

²⁰ しかしそうでないなら、アビメレクから火が出て、シェケムの人々とミロの家を焼き尽くし、またシェケムの人々とミロの家から火が出て、アビメレクを焼き尽くすように。」

²¹ 兄弟アビメレクを恐れたため、ヨタムは逃げ去り、ベエル^{*}へ行ってそこに住んだ。

²² アビメレクは三年の間、イスラエルを治めた。

²³ 神はアビメレクとシェケムの人々との間に悪霊を送られた。シェケムの人々はアビメレクを裏切った。

²⁴ それは、エルバアルの七十人の息子たちに加えられた暴力が報いを受け、彼らを殺した兄弟アビメレクと、兄弟たちを殺すよう彼の手を強めたシェケムの人々の上に、彼らの血の報いが下るためであった。

²⁵ シェケムの人々は彼のために、山々の頂に伏兵を置いた。彼らはその道をとおり過ぎるすべての者を略奪した。そしてそれはアビメレクに告げられた。

²⁶ エベデの子ガアルが彼の兄弟たちとともに来て、シェケムへ渡って行った。シェケムの人々は彼を信頼した。

²⁷ 彼らは野に出て自分たちのぶどう畑のぶどうを収穫し、それを踏んで祭りを催した。そして彼らの神の宮に入り、飲み食いしてアビメレクをのろった。

²⁸ エベデの子ガアルは言った。「私たちが彼に仕えなければならないとは、アビメレクとは何者か。またシェケムとは何者か。彼はエルバアルの息子ではないか。そしてゼブルは彼の役人では

* **9:21 9:21** 「ベエル」は「井戸」を意味する。

ないか。シェケムの父ハモルの人々に仕えなさい。なぜ私たちが彼に仕えなければならないのか。

29 ああ、この民が私の手の下にあったなら。そうすればわたしはアビメレクを除き去るのに。」彼はアビメレクに言った。「あなたの軍勢を増やして、出て来い。」

30 町の長官であるゼブルは、エベデの子ガアルの言葉を聞いて怒りを燃やした。

31 彼はひそかに使者たちをアビメレクに遣わして言った。「見よ。エベデの子ガアルとその兄弟たちがシェケムにきました。そして見よ、彼らはあなたに逆らうよう町を扇動しています。

32 それゆえ今、あなたと、あなたと一緒にいる民は夜の間に起き上がり、野で待ち伏せしなさい。

33 そして朝、日が昇るとすぐに早く起き、町に向かって突進しなさい。見よ。彼と彼と一緒にいる民があなたに向かって出て来るとき、あなたは機会を見つけて彼らにそのように行いなさい。」

34 そこでアビメレクと、彼と一緒にいたすべての民は夜の間に起き上がり、四つの部隊に分かれてシェケムに向かって待ち伏せした。

35 エベデの子ガアルが出て来て、町の門の入り口に立った。アビメレクと、彼と一緒にいた民は待ち伏せから起き上がった。

36 ガアルがその民を見たとき、彼はゼブルに言った。「見よ。民が山々の頂から下って来る。」

ゼブルは彼に言った。「あなたは山々の影を人だと思っているのだ。」

37 ガアルは再び語って言った。「見よ。民が地の中央から下って来る。また一つの部隊がメオネニムの榎の木の道を通して来る。」

38 するとゼブルは彼に言った。「『私たちが彼に仕えなければならないとは、アビメレクとは何者か』と言ったあなたの口は、今どこにあるのか。これが、あなたの軽蔑した民ではないか。さあ、今出て行って彼らと戦え。」

39 そこでガアルはシェケムの人々の前に立って出て行き、アビメレクと戦った。

40 アビメレクは彼を追撃し、彼は彼から逃げた。そして多くの者が傷ついて倒れ、門の入り口にまで及んだ。

41 アビメレクはアルマに留まった。ゼブルはガアルとその兄弟たちを追出し、シェケムに住むことができないようにした。

42 翌日になって、民は野に出て行った。人々はそれをアビメレクに告げた。

43 彼は民を連れて三つの部隊に分け、野で待ち伏せした。彼が見ると、見よ、民が町から出て来たので、彼は彼らに向かって立ち上がり、彼らを打ち倒した。

44 アビメレクと、彼と一緒にいた部隊は突進し、町の門の入り口に立った。他の二つの部隊は野にいるすべての者に向かって突進し、彼らを打ち倒した。

45 アビメレクはその日一日中、町と戦った。彼は町を攻め取り、その中にいた民を殺した。彼は町を打ち壊し、そこに塩を蒔いた。

46 シェケムの塔のすべての人々がそれを聞いたとき、彼らはエル・ベリテの宮の要害に入った。

47 シェケムの塔のすべての人々が集まっていることが、アビメレクに告げられた。

48 アビメレクは、彼と彼と一緒にいたすべての民とともにツアルモン山に上った。アビメレクは手に斧を取り、木の枝を切り落としてそれ

を取り上げ、自分の肩に載せた。そして彼は自分と一緒にいる民に言った。「私がするのを見たとおりに、急いでわたしと同じようにせよ。」

49 そこで民も皆、おのおの自分の枝を切り落とし、アビメレクに従い、それらを要害の上に置き、彼らの上の要害に火を放った。こうしてシェケムの塔のすべての人々もまた死んだ。男女約千人であった。

50 その後、アビメレクはテベツへ行き、テベツに向かって陣を敷き、これを攻め取った。

51 しかし町の中には強固な塔があり、町のすべての男女がそこへ逃げ込み、内側から鍵をかけ、塔の屋根に上った。

52 アビメレクは塔に来てそれと戦い、火でそれを燃やそうと塔の戸に近づいた。

53 すると一人の女がアビメレクの頭の上にひき臼の上石を投げ落とし、彼の頭蓋骨を砕いた。

54 そこで彼は急いで自分の武具を持つ若者を呼び、彼に言った。「おまえの剣を抜き、わたしを殺せ。人々が私について、『女が彼を殺した』と言わないようにするためだ。」その若者が彼を刺し貫いたので、彼は死んだ。

55 イスラエルの人々はアビメレクが死んだのを見て、それぞれ自分の場所へ去って行った。

56 このように神は、アビメレクが七十人の兄弟を殺して自分の父に対して行った悪に報いられた。

57 神はまた、シェケムの人々のすべての悪を彼らの頭上に報いられた。そして、エルバアルの子ヨタムののろいが彼らに臨んだ。

10

1 アビメレクの後、イッサカルの人で、ドドの子プアの息子であるトラが、イスラエルを救うた

めに立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んでいた。

²彼は二十三年の間イスラエルをさばき、死んでシャミルに葬られた。

³彼に続いて、ギルアデ人ヤイルが立ち上がり、二十二年の間イスラエルをさばいた。

⁴彼には三十頭のろばの子に乗る三十人の息子がおり、彼らは三十の町を持っていた。それらは今日に至るまでハボテ・ヤイルと呼ばれ、ギルアデの地にある。

⁵ヤイルは死んでカモンに葬られた。

⁶イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行い、バアルやアシュタロテ、またアラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アンモンの子らの神々、およびペリシテ人の神々に仕えた。彼らは主を捨て、主に仕えなかった。

⁷主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをペリシテ人の手とアンモンの子らの手に売り渡された。

⁸彼らはその年、イスラエルの人々を苦しめ、しいたげた。彼らは十八年の間、ヨルダン川の向こう側、ギルアデにあるアモリ人の地にいたイスラエルのすべての人々をしいたげた。

⁹またアンモンの子らはユダ、ベニヤミン、およびエフライムの家と戦うためにヨルダン川を渡ったため、イスラエルは激しく苦しめられた。

¹⁰イスラエルの人々は主に向かって叫び求めて言った。「私たちはあなたに対して罪を犯しました。私たちの神を捨て、バアルに仕えたからです。」

¹¹主はイスラエルの人々に言われた。「わたしはあなたがたをエジプト人から、またアモリ人、アン

モンの子ら、およびペリシテ人から救い出したではないか。

¹² またシドン人、アマレク人、およびマオン人もあなたがたをしいたげたが、あなたがたがわたしに向かって叫び求めたとき、わたしはあなたがたを彼らの手から救い出した。

¹³ それでもあなたがたはわたしを捨て、他の神々に仕えた。それゆえ、わたしはもはやあなたがたを救わない。

¹⁴ 行って、あなたがたが選んだ神々に向かって叫び求めるがよい。あなたがたの苦難のときには、彼らにあなたがたを救わせるがよい。」

¹⁵ イスラエルの人々は主に言った。「私たちは罪を犯しました。あなたが良いと思われることを、何でも私たちに行ってください。ただどうか、今日私たちを救い出してください。」

¹⁶ 彼らが自分たちの間から外国の神々を除き去り、主に仕えたので、主はイスラエルの悲惨さに胸を痛められた。

¹⁷ そのとき、アンモンの子らは呼び集められ、ギルアデに陣を敷いた。イスラエルの人々もともに集まり、ミツパに陣を敷いた。

¹⁸ 民すなわちギルアデの君長たちは互いに言った。「アンモンの子らとの戦いを始める者はだれか。その者がギルアデの全住民のかしらとなる。」

11

¹ さて、ギレアデ人エフタは力ある勇士であつたが、彼は遊女の息子であつた。ギレアデがエフタの父であつた。

² ギレアデの妻は彼に息子たちを産んだ。妻の息子たちが成長すると、彼らはエフタを追い出して言った。「あなたは私たちの父の家で所有

地を受けてはならない。あなたは別の女の息子だからである。」

³そこでエフタは自分の兄弟たちから逃れ、トブの地に住んだ。ならず者たちがエフタの周りに集まり、彼とともに出て行った。

⁴しばらくして、アンモンの子らがイスラエルに対して戦いを仕掛けた。

⁵アンモンの子らがイスラエルに対して戦いを仕掛けたとき、ギレアデの長老たちはエフタをトブの地から連れ戻そうと出かけた。

⁶彼らはエフタに言った。「来て、私たちの指揮官になってほしい。そうすれば、私たちはアンモンの子らと戦うことができる。」

⁷エフタはギレアデの長老たちに言った。「あなたがたは私を憎み、父の家から私を追い出したではないか。あなたがたが苦難にある今になって、なぜ私のところに來たのか。」

⁸ギレアデの長老たちはエフタに言った。「それゆえ、私たちは今、再びあなたのもとに帰って來たのだ。あなたが私たちとともに行き、アンモンの子らと戦ってくれるためである。そうすれば、あなたはギレアデの全住民の上に立つ私たちの頭となる。」

⁹エフタはギレアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが、アンモンの子らと戦うために私を連れ帰り、主が彼らを私の前に引き渡してくださるなら、私はあなたがたの頭となるのか。」

¹⁰ギレアデの長老たちはエフタに言った。「主が私たちの間の証人となられる。私たちは必ずあなたの言葉どおりに行う。」

¹¹そこでエフタはギレアデの長老たちとともに行き、民は彼を自分たちの上の頭とし、指揮官とした。エフタはミツパにおいて、主の前で自分のす

べての言葉を語った。

12 エフタはアンモンの子らの王に使者たちを遣わして言った。「あなたと私との間に何のかかわりがあつて、あなたは私の地に対して戦うために、私のところに来たのか。」

13 アンモンの子らの王はエフタの使者たちに答えた。「イスラエルがエジプトから上って来たとき、アルノンからヤボク、そしてヨルダン川に至るまで、私の地を奪い取ったからだ。それゆえ今、それらの地を平和のうちに返しなさい。」

14 エフタは再びアンモンの子らの王に使者たちを遣わした。

15 彼は彼に言った。「エフタはこう言う。イスラエルはモアブの地も、アンモンの子らの地も奪い取ってはいない。

16 イスラエルがエジプトから上って来たとき、イスラエルは荒野を通して紅海に行き、カデシュに来た。

17 そのとき、イスラエルはエドムの王に使者たちを遣わして、『どうか、あなたの地を通らせてほしい』と言ったが、エドムの王は聞き入れなかった。同じようにモアブの王にも遣わしたが、彼も承知しなかった。それでイスラエルはカデシュに留まった。

18 それから彼らは荒野を通り、エドムの地とモアブの地を迂回し、モアブの地の東側に来て、アルノンの向こう側に陣を敷いた。しかし彼らはモアブの領土の内には入らなかった。アルノンはモアブの境界だったからである。

19 イスラエルはアモリ人の王、ヘシュボンの王シホンに使者たちを遣わした。イスラエルは彼に言った。『どうか、あなたの地を通して、私の場所へ行かせてほしい。』

20 しかしシホンは、イスラエルが自分の境界を通ることを信用しなかった。それどころか、シホンは自分のすべての民を呼び集め、ヤハツに陣を敷いてイスラエルと戦った。

21 イスラエルの神、主は、シホンとそのすべての民をイスラエルの手に引き渡されたため、彼らはこれを打ち倒した。こうしてイスラエルは、その地方の住民であるアモリ人の全地を所有した。

22 彼らはアルノンからヤボクに至るまで、また荒野からヨルダン川に至るまで、アモリ人の全境界を所有した。

23 それゆえ今、イスラエルの神、主がその民イスラエルの前からアモリ人を追い出されたのに、あなたがその地を所有しようとするのか。

24 あなたの神ケモシュがあなたに所有させるものを、あなたは所有しないのか。そのように、私たちの神、主が私たちの前から追い出された者を、私たちは所有する。

25 今、あなたはモアブの王ツィポルの子バラクにまさっているというのか。彼はかつてイスラエルと争っただろうか。あるいは彼らと戦ったのだろうか。

26 イスラエルがヘシュボンとその町々、アロエルとその町々、またアルノン沿いのすべての町々に三百年の間住んでいたのに、なぜあなたがたはその間にそれらを取り戻さなかったのか。

27 それゆえ、私はあなたに対して罪を犯していないが、あなたは私に対して戦いを仕掛けて悪を行っている。さばき主である主が今日、イスラエルの人々とアンモンの子らとの間をさばかれますように。」

28 しかし、アンモンの子らの王は、エフタが遣わした言葉に聞き入れなかった。

29 そのとき、主の霊がエフタの上に臨み、彼はギレアデとマナセを通り過ぎ、ギレアデのミツパを通り過ぎ、ギレアデのミツパからアンモンの子らのところへ渡って行った。

30 エフタは主に誓願を立てて言った。「もしあなたが本当に、アンモンの子らを私の手に渡して下さるなら、

31 私がアンモンの子らのところから平安のうちに帰るとき、私を迎えに家の戸口から出て来るものは主のものとなります。私はそれを全焼のささげ物としてささげます。」

32 そこでエフタはアンモンの子らと戦うために彼らのところへ渡って行った。主は彼らを彼の手の内に渡された。

33 彼はアロエルからミニテに至るまで、二十の町を打ち、さらにアベル・ケラミムに至るまで、非常に大きな殺戮をもって彼らを打ち倒した。こうしてアンモンの子らはイスラエルの人々の前で服従させられた。

34 エフタがミツパにある自分の家に帰って来ると、見よ、彼の娘がタンバリンを鳴らし、踊りながら彼を迎えに出て来た。彼女は彼の一人娘であった。彼女のほかに彼には息子も娘もいなかった。

35 彼は彼女を見たとき、自分の衣を引き裂いて言った。「ああ、私の娘よ。あなたは私をひどく打ちのめした。あなたは私を苦しめる者の一人だ。私は主に向かって口を開いてしまったので、もう取り消すことはできない。」

36 彼女は彼に言った。「私の父よ。あなたは主に口を開かれたのですから、あなたの口から出たとおりに私にしてください。主があなたの敵であるアンモンの子らに、あなたのために復讐して下さったからです。」

37 彼女は父に言った。「このことを私にさせてください。二か月の間、私をそのままにしてください。私が出かけて山々へ行き、私の処女であることを友たちとともに嘆き悲しむためです。」

38 彼は「行きなさい」と言った。彼は彼女を二か月の間送り出し、彼女は友たちとともに去って行き、山々で自分の処女であることを嘆き悲しんだ。

39 二か月の終わりに、彼女は父のもとに帰り、父は自分が立てた誓願のとおり彼女に行った。彼女は処女であった。これがイスラエルの慣習となった。

40 すなわち、イスラエルの娘たちは、ギレアド人エフタの娘を記念するために、毎年、年に四日間出かけて行くというものであった。

12

1 エフライムの人々は呼び集められ、北へ渡ってエフタに言った。「なぜあなたはアンモンの子らと戦うために渡って行ったとき、あなたとともに行くように私たちを呼ばなかったのか。私たちはあなたの家を、あなたもろとも火で燃やしてやる。」

2 エフタは彼らに言った。「私と私の民は、アンモンの子らと激しい争いをしていた。私があなたがたを呼んだとき、あなたがたは彼らの手から私を救わなかった。」

3 あなたがたが救ってくれないのを見たとき、私は命を懸けてアンモンの子らのところへ渡って行った。そして主は彼らを私の手に渡された。それなのに、なぜあなたがたは今日、私と戦うために上って来たのか。」

4 そこでエフタはギレアドのすべての人々を呼び集め、エフライムと戦った。ギレアドの人々

はエフライムを打ち倒した。彼らが、「あなたがたギレอาด人は、エフライムとマナセの真ん中にいる、エフライムからの逃亡者だ」と言ったからである。

⁵ ギレอาด人はエフライム人に対してヨルダン川の浅瀬を押さえた。エフライムの逃亡者のだれかが「渡らせてくれ」と言ったとき、ギレอาดの人々はその者に「あなたはエフライム人か」と尋ねた。彼が「違う」と言えば、

⁶ 彼らはその者に言った。「さあ、『シッボレト』と言え。」すると彼は「シボレト」と言った。それを正しく発音することができなかったからである。そのとき、彼らはその者を捕らえ、ヨルダン川の浅瀬で殺した。そのときエフライムの四万二千人が倒れた。

⁷ エフタは六年の間イスラエルをさばいた。そしてギレอาด人エフタは死に、ギレอาดの町々の一つに葬られた。

⁸ 彼の後、ベツレヘムのイブツァンがイスラエルをさばいた。

⁹ 彼には三十人の息子がいた。また彼は三十人の娘を家の外へ嫁がせ、三十人の娘を外から息子たちのために迎え入れた。彼は七年の間イスラエルをさばいた。

¹⁰ イブツァンは死んでベツレヘムに葬られた。

¹¹ 彼の後、ゼブルン人エロンがイスラエルをさばいた。彼は十年の間イスラエルをさばいた。

¹² ゼブルン人エロンは死んで、ゼブルンの地のアヤロンに葬られた。

¹³ 彼の後、ピルアトン人ヒレルの子アブドンがイスラエルをさばいた。

¹⁴ 彼には四十人の息子と三十人の孫がおり、七十頭のろばの子に乗っていた。彼は八年の間イスラエルをさばいた。

15 ピルアトン人ヒレルの子アブドンは死んで、エフライムの地にあるアマレク人の山地のピルアトンに葬られた。

13

1 イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行い、主は彼らを四十年の間ペリシテ人の手に渡された。

2 ツォルアのダン人の氏族に、マノアという名の一人の男がいた。彼の妻は不妊の女であり、子がなかった。

3 主の使いがその女に現れて言った。「見よ、あなたは不妊の女であり、子がない。しかし、あなたは身ごもって男の子を産む。

4 それゆえ今、どうか気をつけて、ぶどう酒や強い酒を飲まないようにし、どんな汚れたものも食べないようにしなさい。

5 見よ、あなたは身ごもって男の子を産むからである。彼の頭に剃刀を当ててはならない。その子は胎内にいるときから神へのナジル人となるからである。彼はペリシテ人の手からイスラエルを救い始めるであろう。」

6 そこで女は夫のところに来て、彼に告げて言った。「神の人が私のところに来られました。そのお姿は神の使いのお姿のように、非常に恐ろしいものでした。私は彼がどこから来られたのかお尋ねせず、彼もご自分の名を私に教えてはくありませんでした。

7 しかし、彼は私に言われました。『見よ、あなたは身ごもって男の子を産む。それゆえ今、ぶどう酒や強い酒を飲んではいけません。どんな汚れたものも食べてはいけません。その子は胎内にいるときから死ぬ日まで、神へのナジル人となるからである。』」

8 そこでマノアは主に懇願して言った。「ああ、主よ。どうか、あなたが遣わされた神の人を、もう一度私たちのところに来させ、生まれ
て来る子に私たちが何をすべきかを私たちに教えさせてください。」

9 神はマノアの声に聞き入れられた。神の使いは、女が野に座っていたとき、再び女のところに来た。しかし彼女の夫マノアは彼女とともにいなかった。

10 女は急いで走り、夫に告げて言った。「見よ。あの日私のところに来られた方が、私に現れました。」

11 マノアは立ち上がって妻の後について行き、その人のところに来て彼に言った。「あなたはあの女と話した方ですか。」

彼は言った。「私である。」

12 マノアは言った。「今、あなたの言葉が実現しますように。その子の生き方と務めはどのようなものでしょうか。」

13 主の使いはマノアに言った。「私が女に言ったすべてのことについて、彼女は気をつけなければならない。

14 彼女はぶどうの木から生じるものを一切食べてはならず、ぶどう酒や強い酒を飲んでもならず、またどんな汚れたものも食べてはならない。私が彼女に命じたすべてのことを、彼女は守らなければならない。」

15 マノアは主の使いに言った。「どうか、私たちがあなたを引き留めて、あなたのために子やぎ一匹を用意させてください。」

16 主の使いはマノアに言った。「あなたが私を引き留めても、私はあなたのパンを食べない。もしあなたが全焼のささげ物を用意するなら、あなたはそれを主にささげなければならない

い。」彼が主の使いであることをマノアは知らなかったからである。

¹⁷ マノアは主の使いに言った。「あなたの名は何といいますか。あなたの言葉が実現したとき、私たちがあなたをあがめるためです。」

¹⁸ 主の使いは彼に言った。「なぜあなたは私の名について尋ねるのか。それは理解を超えているからである。*」

¹⁹ そこでマノアは子やぎと穀物のささげ物を取り、それを岩の上で主にささげた。すると、マノアとその妻が見ている間に、使いは不思議なことを行なった。

²⁰ 祭壇から天に向かって炎が上ったとき、主の使いが祭壇の炎の中を上って行ったのである。マノアとその妻はそれを見て、地にひれ伏した。

²¹ しかし主の使いは、マノアやその妻に二度と現れなかった。そのときマノアは、彼が主の使いであったことを知った。

²² マノアは妻に言った。「私たちは神を見てしまったので、間違いなく死ぬだろう。」

²³ しかし彼の妻は彼に言った。「もし主が私たちを殺すことを喜ばれたのなら、私たちの手から全焼のささげ物と穀物のささげ物を受け取られなかったでしょうし、これらすべてのことを私たちに見せられなかったでしょう。また、このようなときに、このような事柄を私たちに告げられなかったでしょう。」

²⁴ 女は男の子を産み、彼をサムソンと名付けた。その子は成長し、主は彼を祝福された。

²⁵ ツォルアとエシュタオルとの間にあるマハネ・ダンで、主の霊が彼を動かし始めた。

* **13:18 13:18** あるいは、「不思議である」。

14

¹サムソンはティムナへ下って行き、ティムナでペリシテ人の娘たちのうちの一人の女を見た。

²彼は上って来て、父と母に告げて言った。

「私はティムナでペリシテ人の娘たちのうちの一人の女を見ました。それゆえ今、彼女を私の妻として迎えてください。」

³すると彼の父と母は彼に言った。「あなたの兄弟たちの娘たちの中にも、私のすべての民の中にも女はいないのか。あなたが割礼を受けていないペリシテ人のところへ行き、妻をめとろうとするとは。」サムソンは父に言った。「彼女を私のために迎えてください。彼女は私の目になっっているからです。」

⁴しかし、彼の父と母は、それが主から出たことであるのを知らなかった。主はペリシテ人に対して機会を求めておられたからである。その頃、ペリシテ人がイスラエルを支配していた。

⁵それからサムソンは父と母とともにティムナへ下って行き、ティムナのぶどう畑に来た。すると見よ、若い雄獅子が彼に向かってほえた。

⁶主の霊が彼の上に激しく臨み、彼は手に何も持っていなかったが、子やぎを引き裂くようにその獅子を引き裂いた。しかし彼は、自分がしたことを父にも母にも告げなかった。

⁷彼は下って行ってその女と話し、彼女はサムソンの気に入った。

⁸しばらくして、彼は彼女をめとるために戻って来た。彼は道をそれてその獅子の死骸を見た。すると見よ、その獅子の体の中には蜂の群れと蜜があった。

⁹彼はそれを手に取り、食べながら歩いて行っ

た。彼は父と母のところに来て、彼らにそれを与え、彼らはそれを食べた。しかし彼は、その蜜を獅子の体から取ったことを彼らに告げなかった。

10 彼の父はその女のところへ下って行った。サムソンはそこで宴会を催した。若者たちはそのようにする習慣だったからである。

11 彼らが彼を見たとき、三十人の仲間を連れて来て、彼とともにいさせた。

12 サムソンは彼らに言った。「さあ、私があなたがたになぞなぞを出そう。もしこの宴会の七日間にそれを私に解き明かし、それを当てることができたなら、私はあなたがたに亜麻布の衣三十着と、着替えの衣三十着を与えよう。

13 しかし、もし私に解き明かすことができないなら、あなたがたが私に亜麻布の衣三十着と、着替えの衣三十着を与えなければならない。」彼らは彼に言った。「あなたのなぞなぞを出しなさい。それを聞こう。」

14 彼は彼らに言った。

「食べる者から食べ物が出た。

強い者から甘いものが出た。」

彼らは三日の間、そのなぞなぞを解き明かすことができなかった。

15 七日目になって、彼らはサムソンの妻に言った。「あなたの夫を説き伏せ、そのなぞなぞを私たちに解き明かすようにさせなさい。そうしなければ、私たちはあなたとあなたの父の家を火で燃やす。私たちを貧しくするために私たちを呼んだのか。そうではないか。」

16 サムソンの妻は彼の前で泣いて言った。「あなたはただ私を憎んでいるだけで、愛してはいない。あなたは私の民の子らになぞなぞを出したの

に、私にはそれを教えてくれない。」彼は彼女に言った。「見よ。私は父にも母にも教えていないのに、あなたに教えようか。」

¹⁷ 彼女は彼らの宴会が続く七日間、彼の前で泣き続けた。七日目に彼女が彼に激しく迫ったので、彼は彼女に教えた。そして彼女はそのなぞなぞを彼女の民の子らに教えた。

¹⁸ 七日目の日が沈む前に、その町の人々は彼に言った。「蜜よりも甘いものは何か。獅子よりも強いものは何か。」彼は彼らに言った。

「もしあなたがたが私の雌牛で耕していなかったなら、

私のなぞなぞを当てることはできなかつただろう。」

¹⁹ 主の霊が彼の上に激しく臨み、彼はアシュケロンへ下って行って、彼らのうち三十人を打ち倒し、その分捕り品を取り、着替えの衣をなぞなぞを解き明かした者たちに与えた。彼の怒りは燃え上がり、彼は父の家に行き上って行った。

²⁰ しかしサムソンの妻は、彼の友人であった彼の仲間にも与えられた。

15

¹ しかししばらくして、小麦の収穫の時期に、サムソンは子やぎ一匹を持って妻を訪ねた。彼は「私の妻のところ、彼女の部屋に入ろう」と言った。しかし彼女の父は彼が入るのを許さなかった。

² 彼女の父は言った。「あなたが彼女をひどく憎んでいるのだと、私は確信していた。それゆえ、私は彼女をあなたの仲間にも与えたのだ。彼女の妹のほうが彼女より美しいではないか。どうか、彼女の代わりにその妹をめとってくれ。」

3 サムソンは彼らに言った。「今度私がペリシテ人に危害を加えても、私は彼らに対して責めを負わない。」

4 サムソンは行って三百匹のきつねを捕らえ、たいまつを取り、尾と尾を向かい合わせ、二つの尾の間に一本のたいまつを置いた。

5 たいまつに火を放つと、彼はそれをペリシテ人の立っている穀物の中に放ち、束ねた麦も、立っている穀物も、またオリーブの林も焼き尽くした。

6 するとペリシテ人は「だれがこんなことをしたのか」と言った。人々は言った。「ティムナ人の婿サムソンだ。ティムナ人が彼の妻を取り、彼の仲間に与えたからだ。」ペリシテ人は上って来て、彼女と彼女の父を火で燃やした。

7 サムソンは彼らに言った。「あなたがたがこのようなことをするなら、私は必ずあなたがたに復讐する。その後で私は終わりにしよう。」

8 彼は大いなる殺戮をもって彼らを徹底的に打ち倒した。そして彼は下って行き、エタムの岩の裂け目に住んだ。

9 その後、ペリシテ人は上って来てユダに陣を敷き、レヒに広がった。

10 ユダの人々は言った。「なぜあなたがたは私たちに向かって上って来たのか。」彼らは言った。「私たちはサムソンを縛り、彼が私たちにしたのと同じように彼にするために上って来た。」

11 そこでユダの人々三千人がエタムの岩の裂け目に下って行き、サムソンに言った。「ペリシテ人が私たちを支配していることを知らないのか。あなたは私たちに何ということをしてくれたのか。」彼は彼らに言った。「彼らが私にしたように、私も彼らにしたのだ。」

12 彼らは彼に言った。「私たちはあなたを縛り、ペリシテ人の手に渡すために下つて来た。」サムソンは彼らに言った。「あなたがた自身は私を攻撃しないと、私に誓ってくれ。」

13 彼らは彼に語って言った。「いいえ、私たちはあなたをしっかりと縛り、彼らの手に渡すだけである。決してあなたを殺しはしない。」彼らは二本の新しい綱で彼を縛り、岩から彼を連れ上った。

14 彼がレヒに来ると、ペリシテ人は彼に会い、大声を上げた。そのとき、主の霊が彼の上に激しく臨み、彼の腕にあった綱は火で燃やされた亜麻糸のようになり、彼を縛っていたものはその手から落ちた。

15 彼はろばの新しいあご骨を見つけ、手を伸ばしてそれを取り、それで千人を打ち倒した。

16 サムソンは言った。

「ろばのあご骨で、山また山。

ろばのあご骨で、私は千人を打ち倒した。」

17 彼が語り終えたとき、彼は手からあご骨を投げ捨てた。その場所はラマテ・レヒ*と呼ばれた。

18 彼は非常に喉が渇き、主に叫び求めて言った。「あなたはしもべの手によってこの大きな救いを与えられました。今、私は喉が渇いて死に、割礼を受けていない者たちの手に落ちなければならないのでしょうか。」

19 しかし神はレヒにあるくぼみを裂かれ、そこから水が出た。彼がそれを飲むと、彼の霊は戻り、彼は生き返った。それゆえその名はエン・ハコレと呼ばれた。それは今日に至るまでレヒにある。

* 15:17

15:17

「ラマテ」は「丘」、「レヒ」は「あご骨」を意味する。

20 彼はペリシテ人の時代に二十年の間、イスラエルをさばいた。

16

1 サムソンはガザへ行き、そこで一人の遊女を見て、彼女のところに入った。

2 ガザの人々は、「サムソンがここに来た」と告げられた。彼らは彼を囲み、町の門で一晩中彼を待ち伏せした。彼らは一晩中静かにして、「朝の光がさすまで待とう。そのとき、彼を殺そう」と言った。

3 サムソンは真夜中まで寝ていたが、真夜中に起き上がり、町の門の扉と二本の門柱をつかみ、かんぬきごと引き抜き、それを自分の肩に載せ、ヘブロンのある山の頂に運んで行った。

4 その後、彼はソレクの谷にいるデリラという名の女を愛するようになった。

5 ペリシテ人の君主たちが彼女のところに上って来て、彼女に言った。「彼を誘惑し、彼の大きな力がどこにあるのか、またどうすれば私たちが彼に勝てるのかを見極めなさい。そうすれば、私たちは彼を縛って苦しめることができる。私たちはそれぞれ、あなたに銀千百枚を与えよう。」

6 デリラはサムソンに言った。「どうか、あなたの大きな力がどこにあるのか、またあなたを縛って苦しめるには何で縛ればよいのか、私に教えてください。」

7 サムソンは彼女に言った。「もし乾かしたことの無い七本の新しい弓弦で私を縛るなら、私は弱くなり、他の人のようになるだろう。」

8 そこでペリシテ人の君主たちは、乾かしたことの無い七本の新しい弓弦を彼女のところに持つて上り、彼女はそれで彼を縛った。

9 そのとき、彼女は奥の部屋に伏兵を待機させていた。彼女は彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は火に触れた麻糸が切れるように弓弦を切った。こうして彼の力の秘密は知られなかった。

10 デリラはサムソンに言った。「見よ、あなたは私をからかい、うそをつきました。今どうか、あなたを縛るには何で縛ればよいのか、私に教えてください。」

11 彼は彼女に言った。「もし仕事に使ったことの無い新しい綱で私を縛るなら、私は弱くなり、他の人のようになるだろう。」

12 そこでデリラは新しい綱を取り、それで彼を縛って、彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」伏兵は奥の部屋で待機していた。彼は腕からそれを糸のように切った。

13 デリラはサムソンに言った。「今まであなたは私をからかい、うそをつきました。あなたを縛るには何で縛ればよいのか教えてください。」彼は彼女に言った。「もし私の頭の七つの髪の毛を機織りの縦糸とともに織り込むなら。」

14 彼女はそれを留め釘で固定し、彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は眠りから目を覚まし、機織り機の留め釘と縦糸を引き抜いた。

15 彼女は彼に言った。「あなたの心が私とともにないのに、どうして『あなたを愛している』と言えるのですか。あなたはこの三度も私をからかい、あ

なたの大きな力がどこにあるのかを教えてくださいませんでした。」

16 彼女が毎日自分の言葉で彼に激しく迫り、彼を促したため、彼の魂は死ぬほどに苦しんだ。

17 彼は自分の心のすべてを彼女に打ち明けて言った。「私の頭には一度も剃刀が当てられたことがない。私は母の胎にいますときから神へのナジル人だからである。もし私が髪を剃られるなら、私の力は私から去り、私は弱くなって他のどの人のようにもなるだろう。」

18 デリラは彼が自分の心のすべてを打ち明けたのを見たとき、人を遣わしてペリシテ人の君主たちを呼び、「今度だけは上って来てください。彼は自分の心のすべてを私に打ち明けました」と言った。するとペリシテ人の君主たちは彼女のところに上って来て、手にその金を持って来た。

19 彼女は彼を自分のひざの上で眠らせ、一人の男を呼んで、彼の頭の七つの髪の毛を剃り落とさせた。彼女は彼を苦しめ始め、彼の力は彼から去った。

20 彼女は言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は眠りから目を覚まし、「私は他のときのように出て行き、身を振りほどいて自由になろう」と言った。しかし彼は主が自分から去られたことを知らなかった。

21 ペリシテ人は彼を捕らえ、その目をえぐり出した。そして彼をガザへ連れて下り、青銅の足かせで彼を縛った。彼は牢獄で白をひいていた。

22 しかし、彼の頭の髪は剃られた後、再び伸び始めた。

23 ペリシテ人の君主たちは、自分たちの神ダゴンに大いなるいけにえをささげ、喜ぶためにともに集まった。彼らは、「私たちの神が、私たち

の敵サムソンを私たちの手に渡された」と言ったからである。

24 民は彼を見たとき、自分たちの神をほめたたえた。彼らが、「私たちの神が、私たちの敵、私たちの国を滅ぼす者、私たちの多くを殺した者を、私たちの手に渡された」と言ったからである。

25 彼らの心が陽気になったとき、彼らは言った。「サムソンを呼べ。彼に私たちを楽しませよう。」彼らは牢獄からサムソンを呼び出し、彼は彼らの前で見せ物にされた。彼らは彼を柱の間に立たせた。

26 サムソンは彼の手を引いていた若者に言った。「この家を支えている柱に触らせてくれ。私がそれに寄りかかるためだ。」

27 その家は男女で満ちており、ペリシテ人のすべての君主たちがそこにいた。屋根の上には約三千人の男女がいて、サムソンが見せ物にされているのを見ていた。

28 サムソンは主に叫び求めて言った。「ああ、主なる神よ。どうか私を思い出してください。ああ、神よ。どうかこの一度だけ私を強くし、私の二つの目のために、私がペリシテ人に一挙に復讐できるようにしてください。」

29 サムソンはその家を支えている中央の二本の柱をつかみ、一本には右手で、もう一本には左手で寄りかかった。

30 サムソンは言った。「ペリシテ人とともに私を死なせてくれ！」彼はありったけの力を振り絞って身をかがめ、その家は君主たちと、その中にいたすべての民の上に倒れ落ちた。こうして彼がその死によって殺した死者は、彼が生きている間に殺した者たちよりも多かった。

31 それから彼の兄弟たちと彼の父の全家が下っ

て来て、彼を引き取り、連れ上って、ツオルアとエシュタオルとの間にある彼の父マノアの墓に彼を葬った。彼は二十年の間イスラエルをさばいた。

17

¹ エフライムの山地に、名をミカという一人の男がいた。

² 彼は母に言った。「あなたから取られたあの銀千百枚ですが、あなたはそれについてのろいの言葉を口にし、私の耳にも語りました。見よ、その銀は私のところにあります。私がそれを取ったのです。」

彼の母は言った。「私の子が主に祝福されますように。」

³ 彼が銀千百枚を母に返すと、彼の母は言った。「私は自分の手からこの銀を、私の子のために彫像と铸像を造るため、確かに主に聖別する。それゆえ今、私はそれをあなたに返そう。」

⁴ そこで彼がその銀を母に返すと、彼の母は銀二百枚を取り、それを銀細工人のところに渡し、彼がそれで彫像と铸像を造った。それはミカの家に置かれた。

⁵ この男ミカは神々の宮を持っており、エポデとテラフィム^{*}を作り、自分の息子たちの一人を聖別し、彼を自分の祭司とした。

⁶ その頃、イスラエルには王がなかった。それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

⁷ ユダの氏族の出である、ユダのベツレヘムから来た一人の若者がいた。彼はレビ人であり、そこに住んでいた。

^{*} 17:5 17:5 テラフィムは家の神々で、家の財産の相続権と関係していた可能性がある。

8 その人は、住むことができる場所を見つけるために、ユダのベツレヘムの町を出て旅立った。そして旅を続けるうちに、エフライムの山地にあるミカの家に来た。

9 ミカは彼に言った。「あなたはどこから来たのか。」

彼は彼に言った。「私はユダのベツレヘムのレビ人です。住むことができる場所を探して旅をしているところです。」

10 ミカは彼に言った。「私とともに住み、私のために父となり、祭司となってほしい。そうすれば、私は一年に銀十枚と、着替えの衣と、あなたの食料を与えよう。」そこでレビ人は中に入った。

11 レビ人はその男とともに住むことに満足し、その若者は彼にとって息子たちの一人のようになった。

12 ミカはそのレビ人を聖別し、その若者は彼の祭司となってミカの家にした。

13 それからミカは言った。

「今、私は主が私に良くしてくださることが分かった。レビ人が私の祭司となったからだ。」

18

1 その頃、イスラエルには王がなかった。またその頃、ダン人の部族は自分たちが住むための所有地を探していた。その日まで、イスラエルの部族の中で彼らに所有地が割り当てられていなかったからである。

2 ダンの子らは、その地を偵察して探るために、全数の中から自分たちの氏族の五人の男、すなわちツォルアとエシュタオルから勇士たちを遣わした。彼らは彼らに、「行ってその地を探れ」と言った。

彼らはエフライムの山地にあるミカの家に来て、そこに泊まった。

3 彼らがミカの家のそばにいたとき、彼らはそのレビ人の若者の声に気づき、そこへ立ち寄って彼に言った。「だれがあなたをここに連れて来たのか。あなたはこの場所で何をしているのか。あなたはここで何を持っているのか。」

4 彼は彼らに言った。「ミカは私にこれこれらの事をしてくれました。彼は私を雇い、私は彼の祭司なのです。」

5 彼らは彼に言った。「どうか神に伺って、私たちが歩んでいる道が栄えるかどうか、私たちに知らせてほしい。」

6 祭司は彼らに言った。「平安のうちに行きなさい。あなたがたの歩んでいる道は主の前にある。」

7 そこで五人の男は出発してライシュに来て、そこにいる民が、シドン人のように静かで安心して、安全に住んでいるのを見た。その地には、彼らは何事においても辱めるような権威を持つ支配者はおらず、彼らはシドン人から遠く離れ、だれとも交わりを持っていなかった。

8 彼らがツオルアとエシュタオルにいる兄弟たちのところに帰って来ると、兄弟たちは彼らに言った。「あなたがたは何と報告するのか。」

9 彼らは言った。「立ち上がって、彼らに対して上って行こう。私たちはその地を見たが、見よ、それは非常に良い。あなたがたは座したままであるのか。ためらわずにその地に入って行き、そこを所有しなさい。」

10 あなたがたが行くとき、安心してきつてい
る民と広い地に来ることになる。神がそれをあなたがたの手に渡されたからである。そこは地にあるものが何一つ不足していない場所である。」

11 そこでダン人の氏族のうち六百人の男が、戦いの武器を身に帯びて、ツオルアとエシュタオルから出発した。

12 彼らは上って行き、ユダのキルヤテ・ヤアリムに陣を敷いた。それゆえ、彼らはその場所を今日に至るまでマハネ・ダンと呼んでいる。見よ、それはキルヤテ・ヤアリムの後ろにある。

13 彼らはそこからエフライムの山地に進み、ミカの家に来た。

14 そのとき、ライシュの地方を偵察に行った五人の男が、兄弟たちに答えて言った。「これらの家の中にエポデ、テラフィム*、彫像、鑄像があるのをあなたがたは知っているか。それゆえ今、あなたがたは何をすべきか考えなさい。」

15 彼らはそこへ立ち寄り、レビ人の若者の家、すなわちミカの家に来て、彼に安否を尋ねた。

16 ダンの子らである、戦いの武器を身に帯びた六百人の男たちは、町の門のそばに立っていた。

17 その地を偵察に行った五人の男が上って来て中に入り、彫像、エポデ、テラフィム、および鑄像を取った。その間、祭司は戦いの武器を身に帯びた六百人の男たちとともに町の門のそばに立っていた。

18 これらがミカの家に入り、彫像、エポデ、テラフィム、および鑄像を取り出したとき、祭司は彼らに言った。「あなたがたは何をしているのか。」

19 彼らは彼に言った。「黙れ。口に手を当てて、私たちとともに行き、私たちのために父となり、祭司となれ。あなたにとって、一人の男の家の祭司となるのと、イスラエルの部族と氏族の祭司となるのとでは、どちらが良いか。」

* 18:14 18:14 テラフィムは家の神々で、家の財産の相続権と関係していた可能性がある。

20 祭司の心は喜び、彼はエポデ、テラフィム、および彫像を取り、民の中に入って行った。

21 こうして彼らは向きを変えて出発し、子供たち、家畜、および財産を自分たちの前に置いた。

22 彼らがミカの家からかなり遠ざかったとき、ミカの家の近くにある家々の男たちが呼び集められ、ダンの子らに追いついた。

23 彼らがダンの子らに向かって叫ぶと、ダンの子らは振り向き、ミカに言った。「一体どうしたというのか。こんな大勢を連れて来るとは。」

24 彼は言った。「あなたがたは私が造った私の神々と、祭司を奪って去って行った。私に何が残っているのか。それなのに、あなたがたはどうして私に『一体どうしたというのか』と言えるのか。」

25 ダンの子らは彼に言った。「私たちの中であなたの声を聞かせてはならない。怒りっぽい者たちがあなたがたを襲い、あなたが自分の命と家族の命を失うことにならないためだ。」

26 ダンの子らは自分たちの道を行き、ミカは彼らが自分より強すぎるのを見て、向きを変えて自分の家に帰って行った。

27 彼らはミカが造ったものと、彼が抱えていた祭司を奪い、ライシュへ、静かで安心していている民のところに来て、剣の刃で彼らを打ち倒し、町を火で燃やした。

28 そこがシドンから遠く離れ、彼らがだれとも交わりを持っていなかったため、救い出す者はいなかった。それはベテ・レホブのそばにある谷にあった。彼らは町を建ててそこに住んだ。

29 彼らはその町の名を、イスラエルに生まれた自分たちの父ダンの名にちなんでダンと呼んだ。ただし、その町の最初の名はライシュであった。

30 ダンの子らは自分たちのためにその彫像を立てた。そしてモーゼの子ゲルショムの子ヨナタン、彼とその子らは、その地が捕囚となる日までダン人の部族の祭司であつた。

31 こうして彼らは、神の宮がシロにあつたすべての期間、ミカが造った彼の彫像を自分たちのために立てていた。

19

1 その頃、イスラエルに王がなかったとき、エフライムの山地の奥に住んでいた一人のレビ人がおり、彼はユダのベツレヘムから自分に一人のそばめを迎えた。

2 彼のそばめは彼に背いて淫行を行い、彼から離れてユダのベツレヘムにある彼の女の父の家に行き、そこで四か月の間過ごした。

3 彼女の夫は立ち上がり、彼女に優しく語りかけて連れ戻すために、しもべ一人と二頭のろばを連れて彼女の後を追って行った。彼女が彼を父の家に連れて入ると、若い女の父は彼を見て、喜んで彼を迎えた。

4 彼のしゅうと、すなわち若い女の父は彼を引き留めたので、彼はそこで三日間滞在した。こうして彼らは飲み食いし、そこに泊まった。

5 四日目になって、彼らは朝早く起き、彼は旅立つために立ち上がった。すると若い女の父は婿に言った。「パンの一切れであなたの心を力づけなさい。それからあなたの道を行きなさい。」

6 そこで彼らは座り、二人はともに飲み食いした。若い女の父はその男に言った。「どうか、喜んで一晩中滞在し、あなたの心を喜ばせなさい。」

⁷ 男は旅立つために立ち上がったが、しゅうとが彼に強く勧めたので、彼は再びそこに泊まった。

⁸ 五日目、彼は旅立つために朝早く起きた。すると若い女の父は、「どうかあなたの心を力づけ、日が傾くまで留まりなさい」と言った。そして二人は食事をした。

⁹ 男が彼のそばめ、およびしもべとともに旅立つために立ち上がると、彼のしゅうと、すなわち若い女の父は彼に言った。「見よ、今は日が暮れかかっている。どうか一晩中滞在しなさい。見よ、日は終わりに近づいている。ここに泊まってあなたの心を喜ばせなさい。そして明日、早く道を行き、あなたの家に帰りなさい。」

¹⁰ しかし男はその夜滞在しようとはせず、立ち上がって旅立ち、エブス（すなわちエルサレム）の向かいに来た。彼とともに鞍を置いた二頭のろばがおり、彼のそばめも彼とともにいた。

¹¹ 彼らがエブスのそばに来たとき、日はかなり暮れていた。しもべは主人に言った。「どうか、来て、このエブス人の町に立ち寄り、そこに泊ましましょう。」

¹² 彼の主人は彼に言った。「イスラエルの人々ではない、外国人の町には立ち寄らない。私たちはギベアまで渡って行く。」

¹³ 彼はしもべに言った。「来て、これらの場所のどれかに近づき、ギベアかラマに泊まろう。」

¹⁴ そこで彼らは通り過ぎ、自分たちの道を行き、ベニヤミンに属するギベアの近くで彼らの上に日が沈んだ。

¹⁵ 彼らはそこへ立ち寄り、ギベアに入って泊まった。彼が入って行き、町の通りに座ったのは、彼らを家に連れて入って泊まらせる者がだれもいなかったからである。

16 見よ。夕暮れに、一人の老人が野での仕事から帰って来た。その男はエフライムの山地の出で、ギベアに住んでいた。しかしその場所の人々はベニヤミン人であった。

17 彼は目を上げ、町の通りにいる旅の男を見た。老人は言った。「あなたはどこへ行くのか。あなたはどこから来たのか。」

18 彼は彼に言った。「私たちはユダのベツレヘムからエフライムの山地の奥へと渡って行くところです。私はそこからユダのベツレヘムへ行きました。今、私は主の家へ行くところですが、私を家に連れて入ってくれる者がだれもいません。

19 私たちのろばのためのわらも飼葉もあります。また、私のためにも、あなたのはしためのためにも、あなたのしもべたちとともにいる若者のためにも、パンとぶどう酒があります。何一つ不足しているものではありません。」

20 老人は言った。「あなたに平安があるように。ただし、あなたのすべての必要は私に任せなさい。ただ通りで泊まってはならない。」

21 そこで彼は彼を自分の家に連れて入り、ろばに飼葉を与えた。彼らは足を洗い、飲み食いした。

22 彼らが自分たちの心を陽気にしていたとき、見よ、その町の人々、すなわち何人かのならず者たちがその家を囲み、戸をたたいて、その家の主人である老人に語って言った。「あなたの家に入ってきた男を引き出せ。私たちが彼を犯すためだ。」

23 その男、すなわち家の主人は彼らのところに出て行って、彼らに言った。「いや、私の兄弟たちよ。どうかそんな悪事を行わないでくれ。この男は私の家に入ってきたのだから、この愚かな行いをしてはならない。」

24 見よ、ここに処女である私の娘と、彼のそばめがいる。私は今、彼女らを引き出そう。彼女らを辱め、あなたがたの目に良いと思われることを彼女らにきなさい。しかしこの男には、そのような愚かな行いをしてはならない。」

25 しかし人々は彼に聞き入れようとしなかった。そこでその男は自分のそばめを捕らえ、彼らのところに引き出した。彼らは彼女を犯し、夜通し朝まで彼女を凌辱した。そして夜が明け始めたとき、彼らは彼女を去らせた。

26 それからその女は夜明けに来て、明るくなるまで、自分の主人がいる男の家の戸口に倒れ伏していた。

27 彼女の主人は朝起きて、家の戸を開け、自分の道を行くために出て来た。すると見よ、彼のそばめである女が家の戸口に倒れ伏しており、その両手は敷居の上にあった。

28 彼は彼女に言った。「起きなさい、行こう。」しかしだれも答えなかった。そこで彼は彼女をろばの上に乗せ、その男は立ち上がって自分の場所へと行った。

29 彼は自分の家に入ると、刃物を取り、自分のそばめをつかんで、手足ごとに十二の切れ切れに切り分け、それをイスラエルの全境界に送った。

30 それを見た者は皆言った。「イスラエルの人々がエジプトの地から上って来た日から今日に至るまで、このような事は行われたことも、見られたこともない。これについて考え、相談し、語りなさい。」

20

1 その時、イスラエルの人々は皆、ダンからベエル・シェバに至るまで、またギルアデの地から

も出て来た。会衆は一人の人のように、ミツパで主の御前に集まった。

²民全体のかしらたち、すなわちイスラエルの全部族のかしらたちは、神の民の集会に立った。剣を抜くことのできる歩兵は四十万人であった。

³ベニヤミンの人々は、イスラエルの人々がミツパへ上ったことを聞いた。イスラエルの人々は言った。「この悪事がどのようにして起こったのか、私たちに話さない。」

⁴殺された女の夫であるレビ人は答えて言った。「私と私のそばめは、泊まるためにベニヤミンに属するギベアに入りました。」

⁵するとギベアの人々が私に逆らって立ち上がり、夜、私のいる家を取り囲みました。彼らは私を殺そうとし、私のそばめを凌辱したので、彼女は死にました。

⁶私は自分のそばめを取り、彼女を切り分けて、イスラエルの所有地のすべての地方に送りました。彼らがイスラエルの中で、みだらで愚かな行いをしたからです。

⁷見よ。イスラエルの人々よ、あなたがたは皆、ここで自分たちの意見と助言を出さない。」

⁸民は皆、一人の人のように立ち上がって言った。「私たちはだれ一人、自分の天幕へ行かない。だれ一人、自分の家へ帰らない。」

⁹今、私たちがギベアに対して行うことはこれである。私たちはくじによってそこへ上って行く。

¹⁰私たちはイスラエルの全部族の中から、百人ごとに十人、千人ごとに百人、一万人ごとに千人を取って、民のために食料を調達させる。民がベニヤミンのギベアに着いたとき、ギベアの者たちがイスラエルで行ったすべての愚かな行いに応じて行えるようにするためである。」

11 こうしてイスラエルの男たちは皆、一人の人のように結び合わされ、その町に向かって集まった。

12 イスラエルの部族は、ベニヤミンの部族全体に使者を遣わして言った。「あなたがたの間で起こったこの悪事は何なのか。

13 それゆえ今、ギベアにいるならず者たちを引き渡しなさい。私たちは彼らを殺し、イスラエルから悪を除き去るためである。」しかしベニヤミンの人々は、兄弟であるイスラエルの人々の声に聞き入れようとしなかった。

14 ベニヤミンの人々は、イスラエルの人々と戦うため、町々からギベアに集まった。

15 その日、町々から集まったベニヤミンの人々のうち、剣を抜くことのできる者は二万六千人と数えられた。これに加えて、ギベアの住民から七百人のえり抜きの者たちが数えられた。

16 このすべての民の中には、左利きの七百人のえり抜きの者たちがいた。彼らは皆、髪の毛一本を狙って石を投げて、外すことがなかった。

17 ベニヤミン以外のイスラエルの男たちは、剣を抜くことのできる者が四十万人と数えられた。これらは皆、戦士であった。

18 イスラエルの人々は立ち上がってベテルへ上り、神に伺って言った。「私たちのために、だれが最初にベニヤミンの人々との戦いに上るべきでしょうか。」主は言われた。「ユダが最初である。」

19 イスラエルの人々は朝早く起き、ギベアに向かって陣を敷いた。

20 イスラエルの男たちはベニヤミンと戦うために出て行き、ギベアで彼らに向かって陣形を整えた。

21 ベニヤミンの人々はギベアから出て来て、その日、イスラエル人二万二千人を地に打ち倒した。

22 しかし民、すなわちイスラエルの男たちは自らを奮い立たせ、最初の日に陣形を整えた場所で、再び陣形を整えた。

23 イスラエルの人々は上って行き、夕暮れまで主の御前で泣いた。彼らが主に伺って、「私たちの兄弟であるベニヤミンの人々との戦いに、再び近づくべきでしょうか」と言うと、主は言われた。「彼らに向かって上って行け。」

24 イスラエルの人々は二日目に、ベニヤミンの人々に近づいた。

25 ベニヤミンは二日目にギベアから彼らに向かって出て行き、イスラエルの人々のうち、さらに一万八千人を地に打ち倒した。これらは皆、剣を抜くことのできる者たちであった。

26 その時、イスラエルの人々と民は皆上って行き、ベテルに来て泣き、主の御前に座り、その日は夕暮れまで断食し、主の御前に全焼のささげ物と和解のいけにえを献げた。

27 イスラエルの人々は主に尋ねた。その頃、神の契約の箱がそこにあり、

28 アロンの子エルアザルの子ピネハスが、その頃その前に立っていた。彼らは言った。「私たちの兄弟であるベニヤミンの人々との戦いに、再び出て行くべきでしょうか。それともやめるべきでしょうか。」主は言われた。「上って行け。明日、わたしは彼らをあなたの手に渡す。」

29 イスラエルはギベアの周囲に伏兵を置いた。

30 イスラエルの人々は三日目にベニヤミンの人々に向かって上って行き、前の時と同じようにギベアに向かって陣形を整えた。

31 ベニヤミンの人々は民に向かって出て行き、町から引き離された。彼らは前の時と同じように、野にある大通りでイスラエルの人々およそ三十人を打って殺し始めた。一方の大通りはベテルへ、もう一方はギベアへ上る道であった。

32 ベニヤミンの人々は、「彼らは最初の時と同じように、私たちの前で打ち倒されている」と言った。しかしイスラエルの人々は、「私たちは逃げて、彼らを町から大通りへ引き離そう」と言った。

33 イスラエルの男たちは皆その場所から立ち上がり、バアル・タマルで陣形を整えた。イスラエルの伏兵たちは、その場所、すなわちマアレ・ゲバから突進した。

34 全イスラエルから選ばれた一万人がギベアの前に来て、戦いは激しくなった。しかしベニヤミンの人々は、わざわざ自分たちに迫っていることを知らなかった。

35 主はイスラエルの前でベニヤミンを打たれた。その日、イスラエルの人々はベニヤミンのうち二万五千百人を滅ぼした。これらは皆、剣を抜くことのできる者たちであった。

36 こうしてベニヤミンの人々は、自分たちが打ち破られたのを見た。イスラエルの男たちがベニヤミンに場所を譲ったのは、ギベアに向かって置いた伏兵を信頼していたからである。

37 伏兵は急いでギベアに突進した。伏兵は広がり、剣の刃で町全体を打った。

38 さて、イスラエルの男たちと伏兵との間の合図は、町から大きな煙の雲を立ち上らせることであった。

39 イスラエルの男たちが戦いで向きを変えると、ベニヤミンはイスラエルの男たちおよそ三十人を打って殺し始めた。彼らが、「確かに彼らは最

初の戦いのように、私たちの前で打ち倒されている」と言ったからである。

⁴⁰ しかし、その雲が煙の柱となって町から立ち上り始めた時、ベニヤミン人が後ろを振り返ると、見よ、町全体が天に向かって煙となっていた。

⁴¹ イスラエルの男たちが向きを変えたため、ベニヤミンの男たちはおののいた。わざわざ自分たちに臨んだのを見たからである。

⁴² それで彼らはイスラエルの男たちの前で背を向け、荒野への道に向かった。しかし戦いは彼らに激しく迫り、町々から出て来た者たちは、そのただ中で彼らを滅ぼした。

⁴³ 彼らはベニヤミン人を囲み、彼らを追い、休む間もなく踏みにじって、日の出る方、ギベアの近くにまで迫った。

⁴⁴ ベニヤミンのうち一万八千人が倒れた。これらは皆、勇士たちであった。

⁴⁵ 彼らは向きを変えて、荒野に向かってリモンの岩へ逃げた。イスラエル人は大通りで彼らのうち五千人を拾い討ちにし、さらにギドムまで激しく追撃して、そのうち二千人を打った。

⁴⁶ こうしてその日、ベニヤミンのうち倒れた者は皆で二万五千人であり、剣を抜くことのできる者たちであった。これらは皆、勇士たちであった。

⁴⁷ しかし六百人は向きを変え、荒野に向かってリモンの岩へ逃げ、四か月の間、リモンの岩に留まった。

⁴⁸ イスラエルの男たちは再びベニヤミンの人々のところに向きを変え、町全体も、家畜も、彼らが見つけたすべてのものも、剣の刃で打った。さらに、見つけたすべての町に火を放った。

21

¹ さて、イスラエルの男たちはミツパで誓って言った。「私たちのうち、だれ一人として自分の娘をベニヤミンに妻として与えてはならない。」

² 民はベテルに来て、そこで夕暮れまで神の前に座り、声を上げて激しく泣いた。

³ 彼らは言った。「ああ、イスラエルの神、主よ。なぜイスラエルにこのようなことが起こり、今日イスラエルにおいて一つの部族が欠けることになってしまったのでしょうか。」

⁴ 翌日、民は朝早く起き、そこに祭壇を築いて、全焼のささげ物と和解のいけにえを献げた。

⁵ イスラエルの人々は言った。「イスラエルのすべての部族の中で、主の集会に上って来なかった者はだれか。」彼らは、ミツパで主のもとに上って来なかった者について、「その者は必ず死刑に処せられる」と大きな誓いを立てていたからである。

⁶ イスラエルの人々は兄弟であるベニヤミンのために悲しんで言った。「今日、イスラエルから一つの部族が断ち切られてしまった。」

⁷ 私たちは主にかけて、私たちの娘たちを彼らに妻として与えないと誓ったのだから、残っている者たちに妻を備えるにはどうすればよいのか。」

⁸ 彼らは言った。「イスラエルの部族の中で、ミツパで主のもとに上って来なかった者はだれか。」すると見よ、ヤベシュ・ギレアデからはだれ一人として集会の陣営に来ていなかった。

⁹ 民が数えられた時、見よ、そこにヤベシュ・ギレアデの住民はだれもいなかった。

¹⁰ 会衆は最も勇敢な一万二千人をそこへ遣わし、彼らに命じて言った。「行つて、ヤベシュ・ギレア

デの住民を、女や子どもたちもろとも剣の刃で打ちなさい。

11 あなたがたが行うべきことはこれである。すべての男子と、男と寝たことのあるすべての女を完全に滅ぼし尽くしなさい。」

12 彼らはヤベシュ・ギレアデの住民の中に、男と寝て男を知ったことのない四百人の若い処女を見つけた。そして彼女たちを、カナンの地にあるシロの陣営に連れて来た。

13 全会衆はリモンの岩にいるベニヤミンの人々に使者を遣わして語り、彼らに平和を告げた。

14 ベニヤミン人はその時、戻って来たので、彼らはヤベシュ・ギレアデの女たちの中で生かしておいた女たちを彼らに与えた。それでも彼らには十分ではなかった。

15 主がイスラエルの部族に破れ目を作られたため、民はベニヤミンのために悲しんだ。

16 その時、会衆の長老たちは言った。「ベニヤミンの女たちは滅ぼされてしまったので、残っている者たちに妻を備えるにはどうすればよいのか。」

17 彼らは言った。「イスラエルから一つの部族が消し去られないように、ベニヤミンから逃げ延びた者たちには所有地が残らなければならない。

18 しかし、私たちは自分たちの娘を彼らに妻として与えることはできない。イスラエルの人々は、『ベニヤミンに妻を与える者はのろわれる』と言って誓ったからである。」

19 彼らは言った。「見よ。ベテルの北、ベテルからシェケムへ上る大通りの東側、レボナの南にあるシロでは、年ごとに主の祭りがある。」

20 彼らはベニヤミンの人々に命じて言った。「行って、ぶどう畑で待ち伏せしなさい。

21 そして見なさい。シロの娘たちが踊りを踊るために出て来たら、あなたがたはぶどう畑から出て来て、シロの娘たちの中からそれぞれ自分の妻を捕らえ、ベニヤミンの地へ行きなさい。

22 彼女たちの父たち、または兄弟たちが私たちに不平を言いに来た時、私たちは彼らにこう言う。『どうか、私たちのために彼らに好意を示してやってほしい。私たちは戦いで彼ら一人一人に妻を取ることができなかった。また、あなたがたが自分で娘を彼らに与えたのでもないから、今あなたがたが罪に問われることはない。』」

23 ベニヤミンの人々はそのように行い、踊っていた者たちの中から、自分たちの数に合わせ妻を連れ去った。彼らは行って自分たちの所有地に帰り、町々を建ててそこに住んだ。

24 イスラエルの人々はその時、それぞれ自分の部族、自分の氏族のところへ去って行った。彼らはそこから出て、それぞれ自分の所有地へ行った。

25 その頃、イスラエルには王がなかった。それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-08

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424